

ぐんま“まちづくり”ビジョン  
みどり市アクションプログラム



平成26年8月  
みどり市

# CONTENTS

## 1. ぐんま“まちづくり”ビジョンみどり市アクションプログラムについて

アクションプログラムの位置づけ .....	02
-----------------------	----

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

2-1. 人口の推移 .....	03
2-2. 地区別人口の推移 .....	04
2-3. 世帯数の推移 .....	05
2-4. 地区別の高齢化の推移 .....	05
2-5. DID面積とDID人口の推移 .....	06
2-6. 土地利用の状況 .....	07
2-7. 地価と人口の分布状況 .....	08
2-8. 自動車依存型社会の進展 .....	09
2-9. 空き家の状況 .....	09
2-10. 大規模住宅団地等の立地状況 .....	10
2-11. 公共施設、学校等の立地状況 .....	11
2-12. 大規模商業施設の立地状況 .....	12
2-13. 道路・交通網の現状 .....	13
2-14. 主要渋滞箇所の現状 .....	14
2-15. 公共交通のカバー度 .....	15

## 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

3-1. 社会保障関係費の増加 .....	16
3-2. 社会資本整備費及び維持管理費用の増加 .....	16
3-3. 人口減少と高齢化の進展 .....	17
3-4. 地域別の人口の推計 .....	18
3-5. 商品販売額及び製造品出荷額の推移 .....	19
3-6. 公共交通の推移 .....	20
3-7. 高齢者の自動車利用の増加 .....	21
3-8. 人口の流動化 .....	21
3-9. 財政的制約の見通し .....	22
3-10. 買物弱者の増加 .....	22
3-11. 将来のみどり市民のくらしや行政運営に生じる問題 .....	23

## 4. みどり市のまちの検証カルテ

4-1. まちの特性に応じた施策の検討 .....	24
4-2. 検証結果 .....	25

## 5. 「まちの将来像」の実現に向けた都市づくりの基本目標

都市づくりの基本目標 .....	26
------------------	----

## 6. みどり市の基本方針と取組内容

6-1. 都市づくりの基本目標を達成するための基本方針 .....	27
6-2. 基本方針に基づく取組み .....	28
6-3. 基本方針に基づく取組みの内容 .....	29

基本方針1 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

基本方針2 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致

基本方針3 地域の誇れる個性・景観・くらしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

基本方針4 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

基本方針5 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

基本方針6 ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

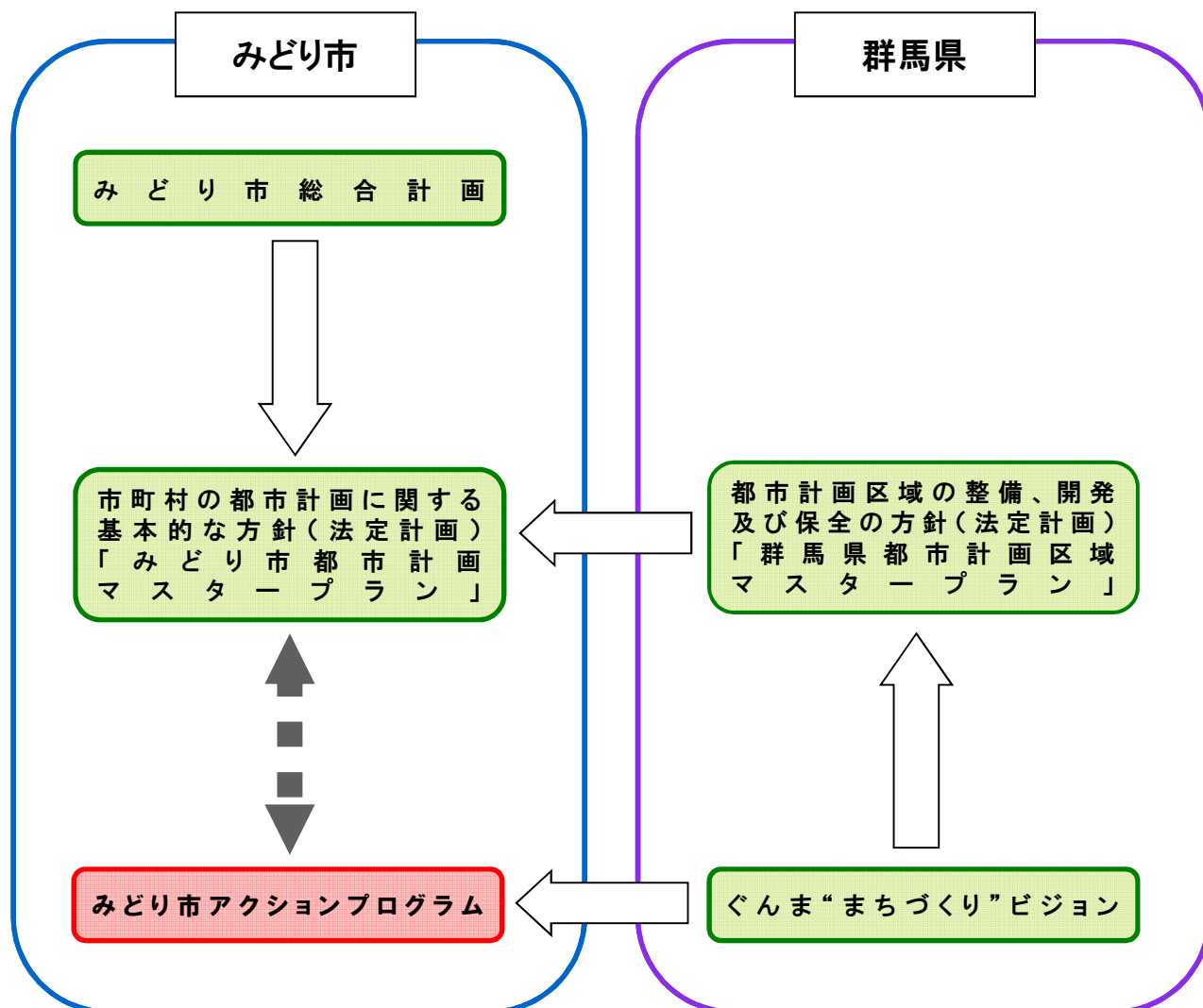
基本方針7 家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

## 7. 重点プロジェクト

重点プロジェクトの策定 .....	32
Project 1. 安全安心で快適に過ごせる魅力あるまちづくり .....	33
Project 2. 地域資源を活用した観光まちづくり .....	35

# 1. ぐんま“まちづくり”ビジョンみどり市アクションプログラムについて

## アクションプログラムの位置づけ



群馬県が平成24年9月に策定した「ぐんま“まちづくり”ビジョン」により、これからの県内におけるまちづくりの取組方針が明らかにされました。

みどり市では、この「ぐんま“まちづくり”ビジョン」を受けて、人口減少・超高齢社会といった、都市を取り巻く環境の変化に対応するため本アクションプログラムを策定し、具体的なまちづくりの取組を市民と共有し、着実に進めます。

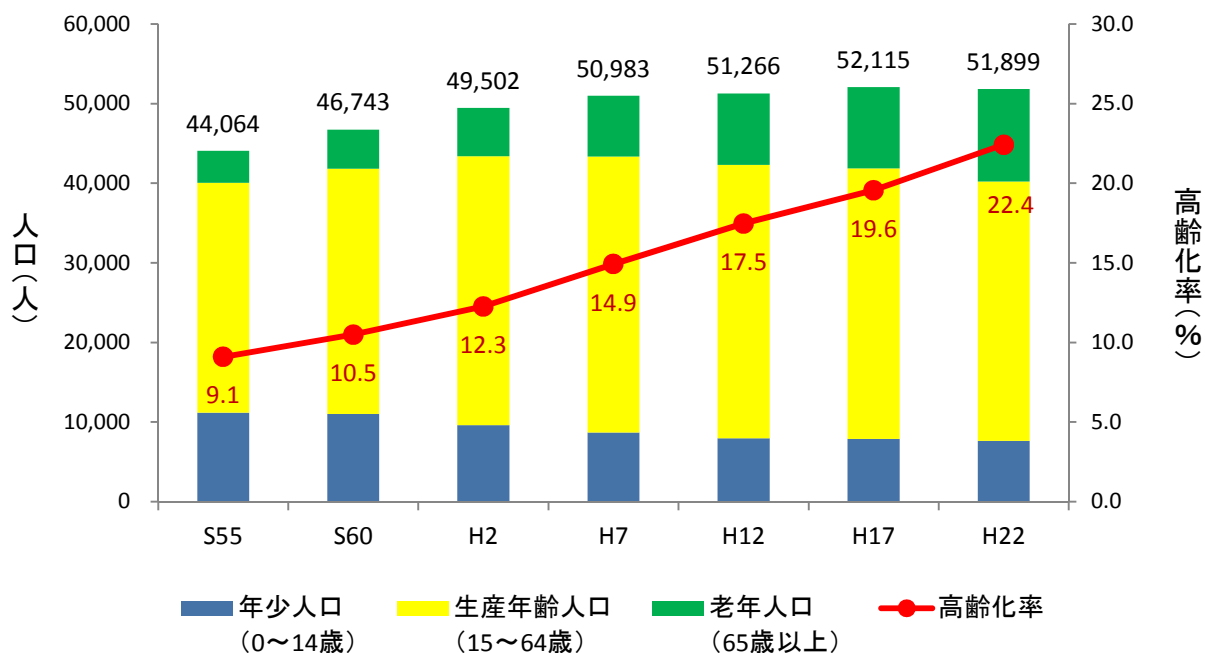
## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-1. 人口の推移

当市の人口推移を国勢調査で見ると、昭和55年から平成7年までは緩やかな増加傾向を示し、以後は、ほぼ横ばいです。

年齢3区分別人口では、年少人口が徐々に減少し、老年人口が増加しています。高齢化率は、平成22年度が22.4%で超高齢社会となっていることがわかります。

みどり市の年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査(総務省)より

年次	年少人口	増減数	生産年齢人口	増減数	老年人口	増減数
平成2年	9,609		33,783		6,072	
平成12年	7,984	▲1,625	34,325	542	8,957	2,885
平成22年	7,632	▲352	32,578	▲1,747	11,632	2,675

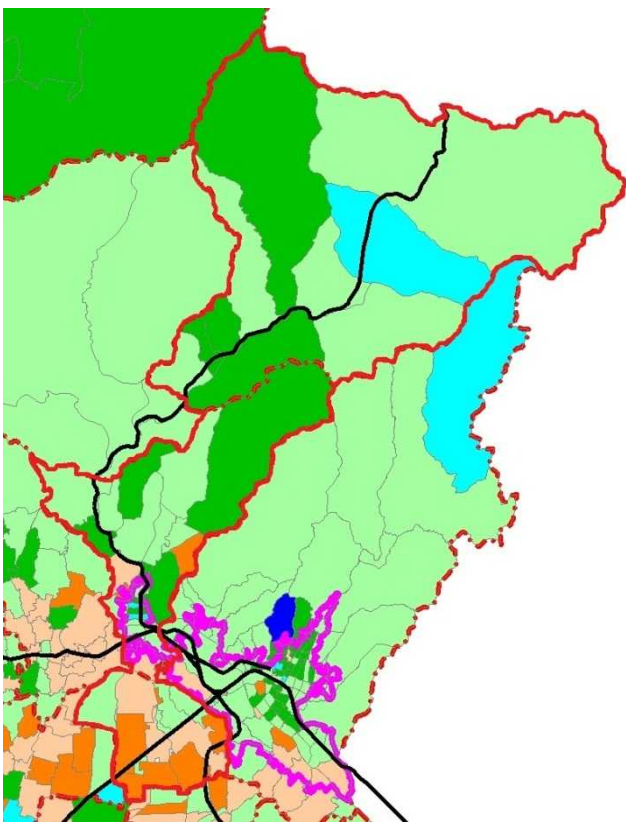
資料：国勢調査(総務省)より

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

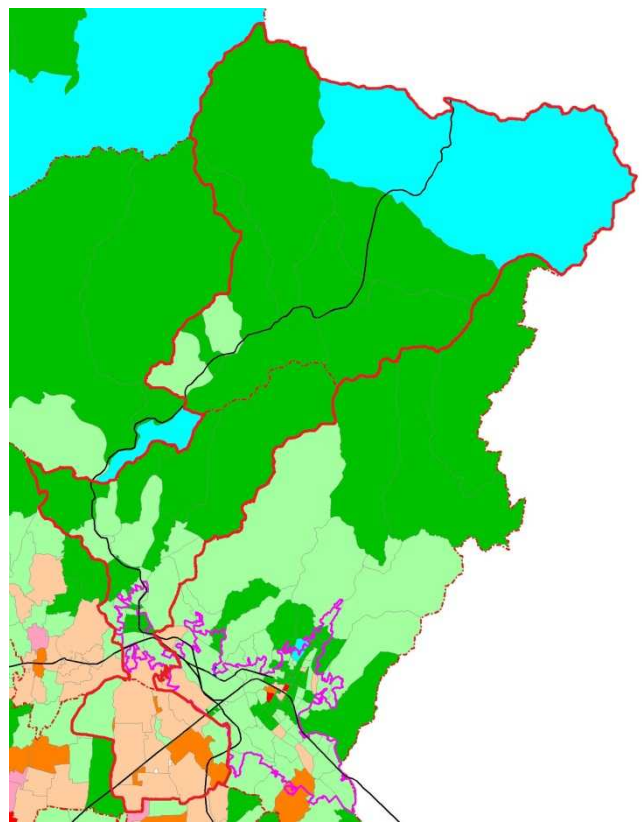
### 2-2. 地区別人口の推移

当市における地区別人口は、東町地区及び大間々町地区で減少傾向ですが、笠懸町地区は増加傾向にあります。

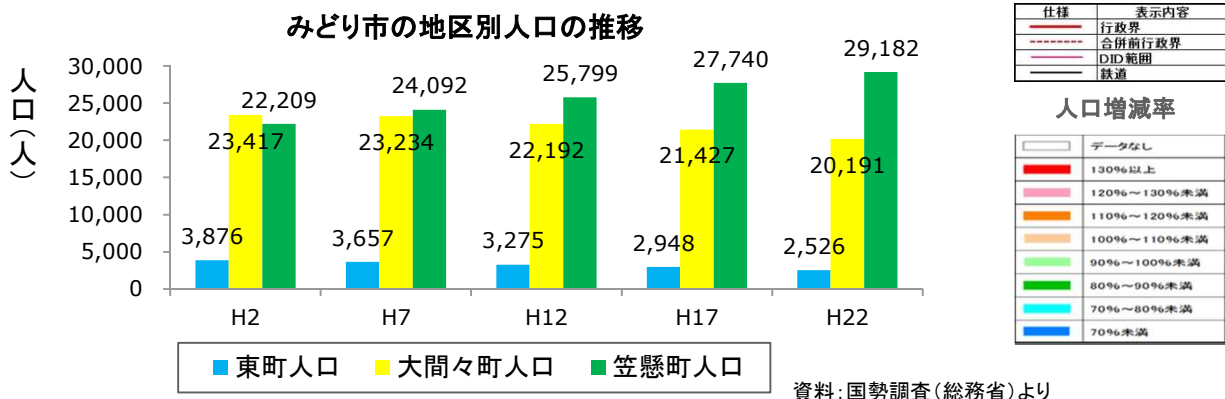
笠懸町地区の人口は、平成17年には27,740人でしたが、平成22年には29,182人に増加しており、その増加幅は1,400人強になります。東町地区の人口は、平成17年には2,948人でしたが、平成22年には2,526人に減少しており、その減少幅は400人強となっています。大間々町地区は、平成17年には21,427人でしたが、平成22年には20,191人に減少しており、その減少幅は1,200人強となっており、平成22年については、東町、大間々町の両地区を併せた減少数が笠懸町地区の増加数を上回っており、市全体としても減少になっています。



平成12年から平成17年の国勢調査区別の人口増減図  
資料:「国勢調査」(平成17年度、総務省)より作成



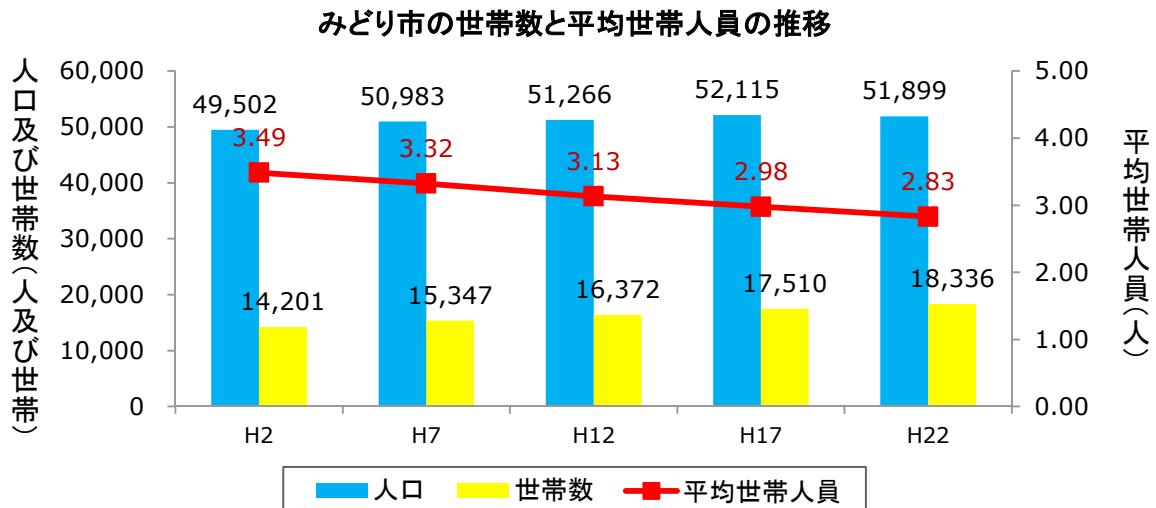
平成17年から平成22年の国勢調査区別の人口増減図  
資料:「国勢調査」(平成22年度、総務省)より作成



## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-3. 世帯数の推移

当市における世帯数は、平成2年以降、年々増加していますが、反対に平均世帯人員は年々減少しており、単身世帯の増加や核家族化が進んでいます。

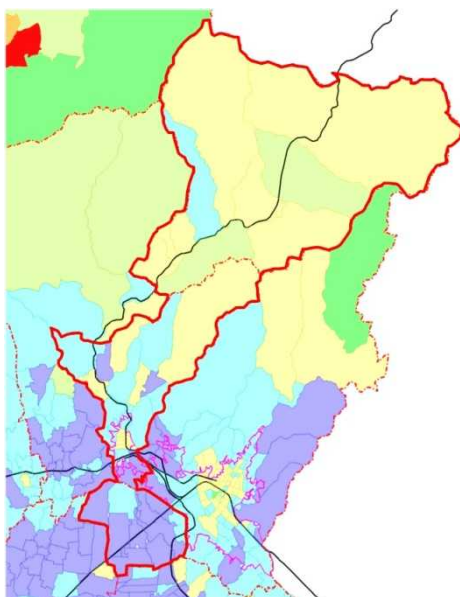


資料：国勢調査(総務省)より

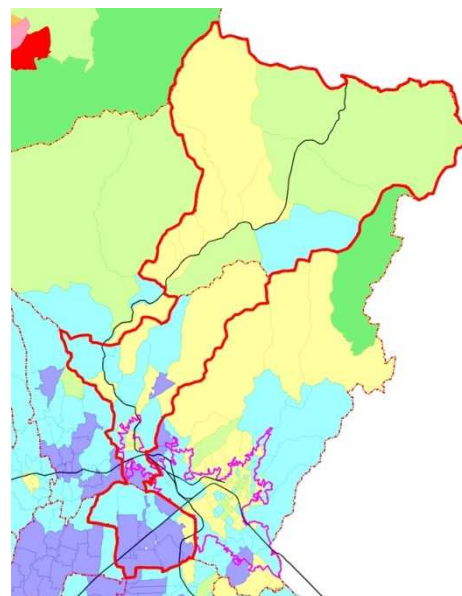
### 2-4. 地区別の高齢化の推移

当市における高齢化率は、平成22年国勢調査によると22.4%となっており、特に東町地区においては、高齢化率が38.5%で顕著になっています。大間々町地区は、26.3%で市街地の一部で高齢化率が30%以上の高い地区があります。また、笠懸町地区は、高齢化率が18.4%で低く、若い世代の転入が進んでいます。

なお、高齢者人口の地域分布では、東町が約970人、大間々町、笠懸町地区にそれぞれ約5,300人程度居住しており、高齢者の9割が大間々町、笠懸町の両地区に居住しています。



平成17年の国勢調査区別高齢化率図  
資料：「国勢調査」(平成17年度、総務省)より作成



平成22年の国勢調査区別高齢化率図  
資料：「国勢調査」(平成22年度、総務省)より作成

仕様	表示内容
—	行政界
- - -	合併前行政界
—	DID範囲
—	鉄道

#### 高齢化率

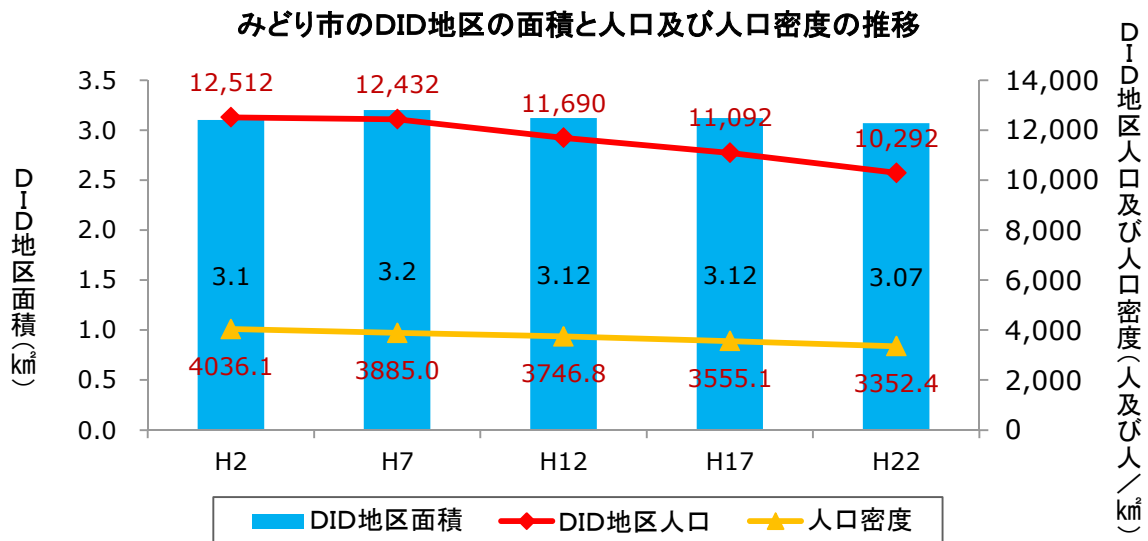
■	0%-10%未満
■	10%-20%未満
■	20%-30%未満
■	30%-40%未満
■	40%-50%未満
■	50%-60%未満
■	60%-70%未満
■	70%-80%未満
■	80%-90%未満
■	90%以上

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

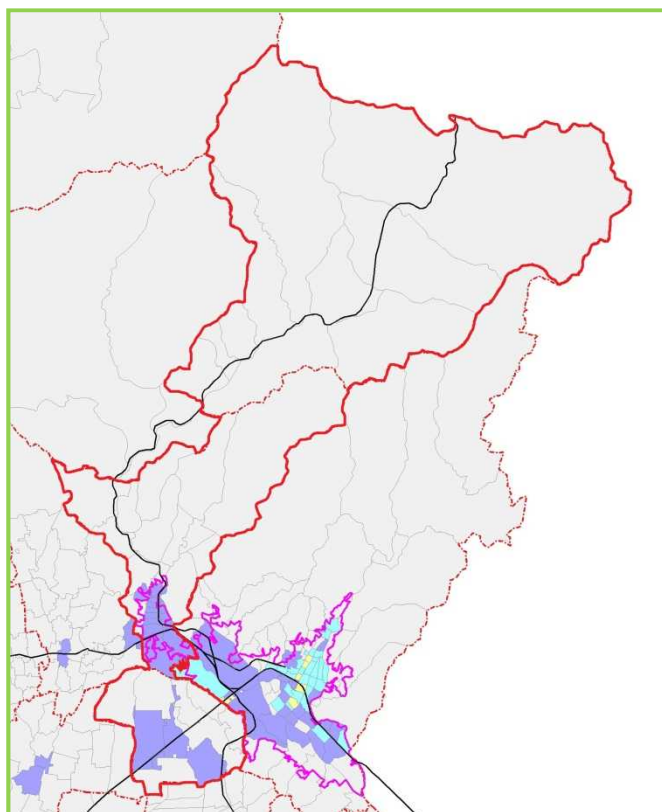
### 2-5. DID面積とDID人口の推移

当市の人口は平成17年以降横ばい傾向にありますが、大間々町地区の人口集中地区（DID地区）の人口は、平成12年以降減少傾向にあります。そのためDID地区面積にあまり変化がないため、人口密度が減少傾向にあります。

DID地区外の笠懸町地区において、平成12年～22年の間で、DID地区人口の約3割に相当する3,383人の人口が増加していることとなります。



資料：国勢調査（総務省）より



仕様	表示内容
—	行政界
- - -	合併前行政界
—	DID範囲
—	鉄道

人口密度

■	0-20人未満
■	20-40人未満
■	40-60人未満
■	60-80人未満
■	80-100人未満
■	100-120人未満
■	120-150人未満
■	150人以上

平成22年国勢調査区別人口密度図

資料：「国勢調査」（平成22年度、総務省）より作成

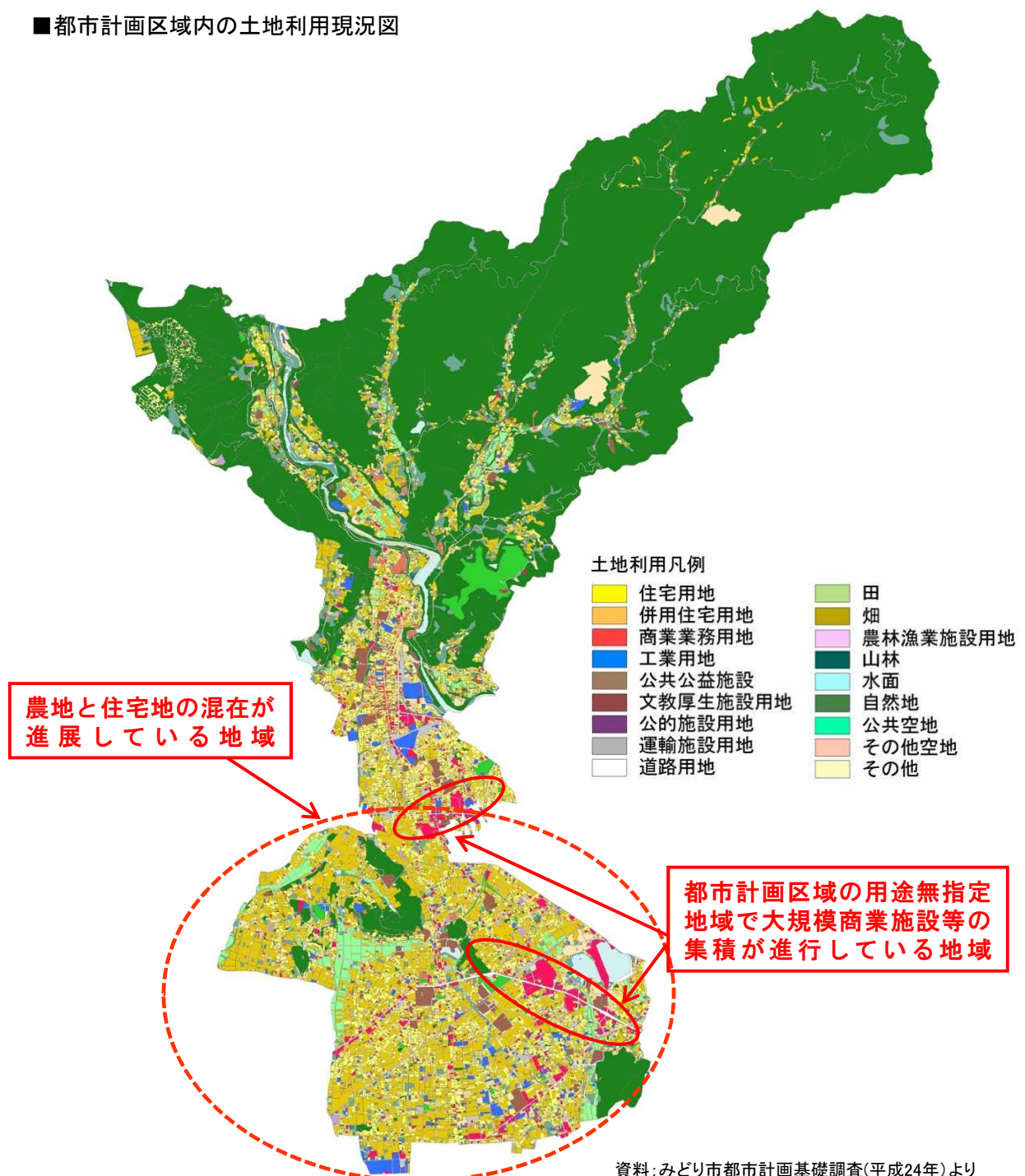
## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-6. 土地利用の状況

当市は、北部の大部分が山林となっており、住宅用地や商業業務用地などの都市的土地利用は、中央部から南部の平坦部に広がっています。

笠懸町地区と大間々町地区は、都市計画区域となっていますが、用途地域が指定されておらず、平坦部には、都市的土地利用に転換される可能性のある農地が多数点在しています。特に、笠懸町地区には、当市の農業生産を支える優良農地が多く残存しておりますが、農地と土地開発によって増加する住宅地との混在が進展しています。

■都市計画区域内の土地利用現況図





## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-7. 地価と人口の分布状況

大間々町地区のD I D地区内と比較して、地価の安い笠懸町地区への住宅購入等による人口の増加が進行しています。今後もこうした傾向で推移した場合は、道路や下水道などの都市基盤整備が整わないまま、さらに農地と住宅地の混在が進展することが想定されます。農業と都市的土地利用の調和の図られた土地利用の規制・誘導と計画的な都市基盤整備が必要です。

仕様	表示内容
	行政界
	D I D 範囲
	鉄道

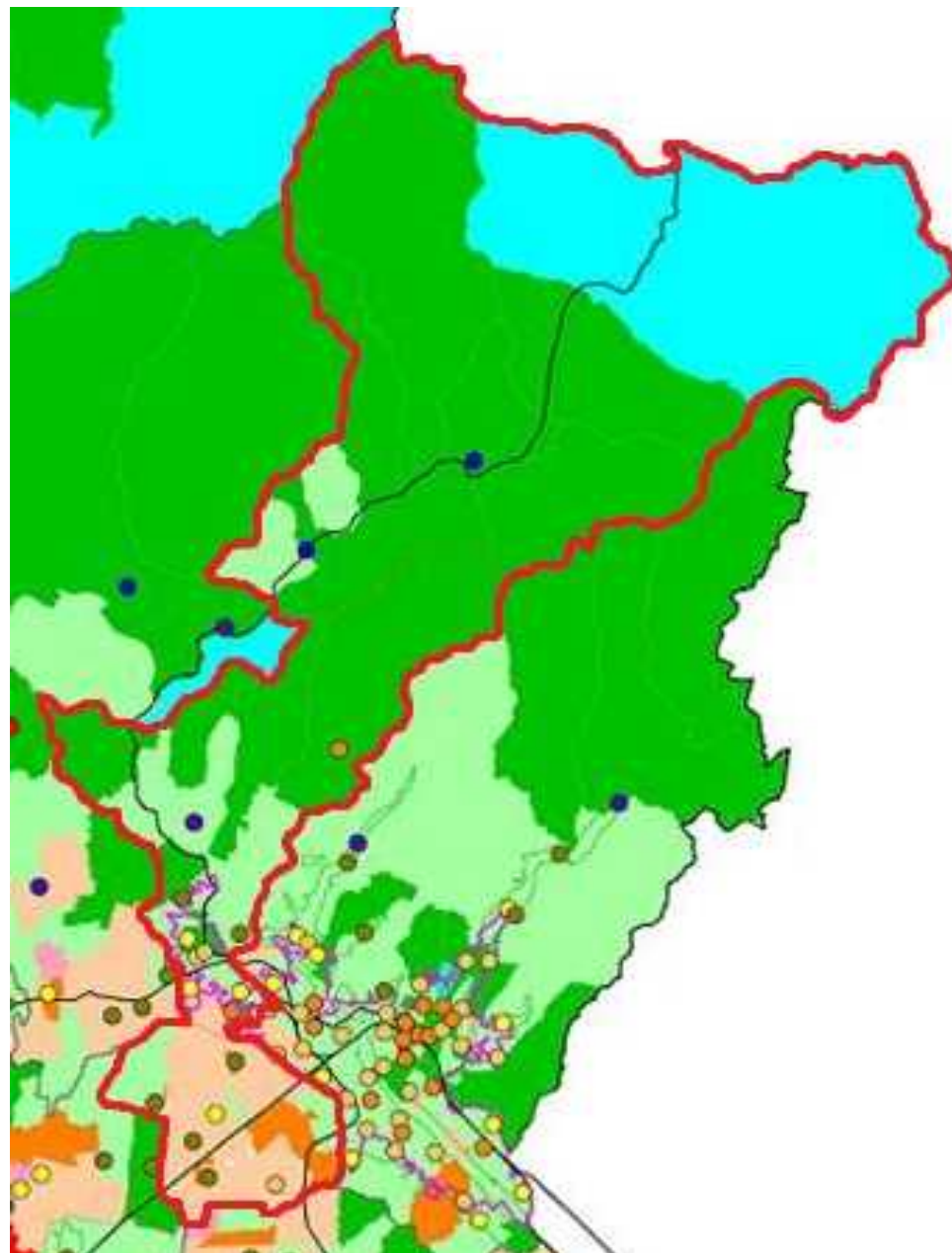
#### 地価

仕様	表示内容
	0 ～ 10,000
	10,000 ～ 20,000
	20,000 ～ 30,000
	30,000 ～ 40,000
	40,000 ～ 50,000
	50,000 ～ 100,000
	100,000 以上

(円/㎡)

#### 人口増減率

	データなし
	130%以上
	120%～130%未満
	110%～120%未満
	100%～110%未満
	90%～100%未満
	80%～90%未満
	70%～80%未満
	70%未満



平成22年国土交通省地価公示及び平成22年群馬県地価調査並びに平成22年国勢調査の調査区別人口分布図から作成

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

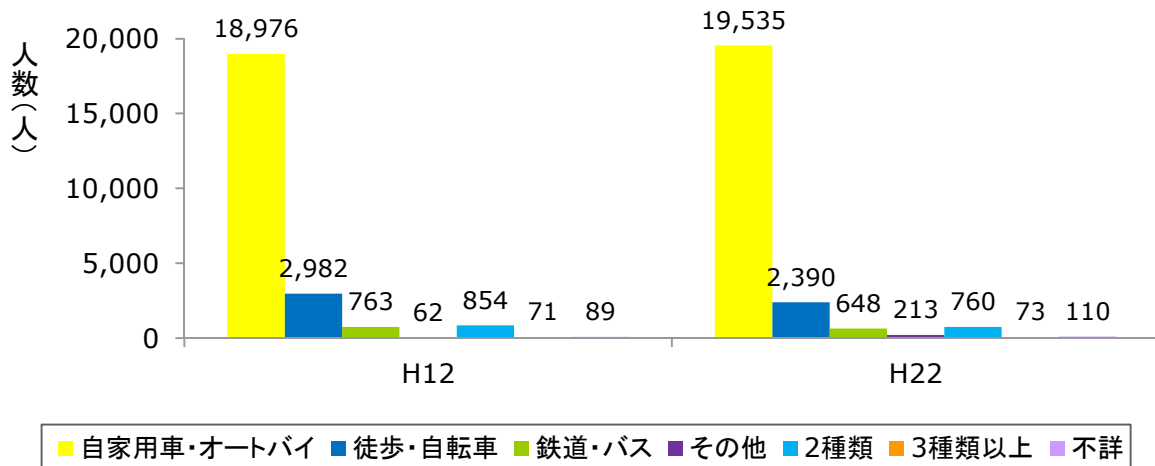
### 2-8. 自動車依存型社会の進展

当市の15歳以上の通勤・通学者数は、平成12年が23,797人、平成22年が23,729人とほとんど変化はありません。

利用交通手段としては、自家用車・オートバイの利用が最も多い交通手段となっています。

平成12年と平成22年を比較すると、自家用車・オートバイの利用が増加し、徒歩・自転車や鉄道・バスなど公共交通機関の利用が減少しています。

みどり市の通勤・通学の利用交通手段



資料：国勢調査（総務省）より

### 2-9. 空き家の状況

空き家数、空き家率は、群馬県全体で増加し続けており、昭和33年は空き家数が4,900戸、空き家率1.6%でしたが、平成20年には空き家数が123,100戸、空き家率は14.4%となっています。

当市の空き家数、空き家率は、平成20年に2,710戸、13.0%となっています。内訳をみると、廃家等誰も寝泊まりすることなく、賃貸用でも売却用でもない「その他の住宅」の占める割合が46.9%で、県や県内市部の割合と比較しても10%以上も高いという特徴があります。また、別荘等の「二次的住宅」も県や県内市部と比較して高くなっています。

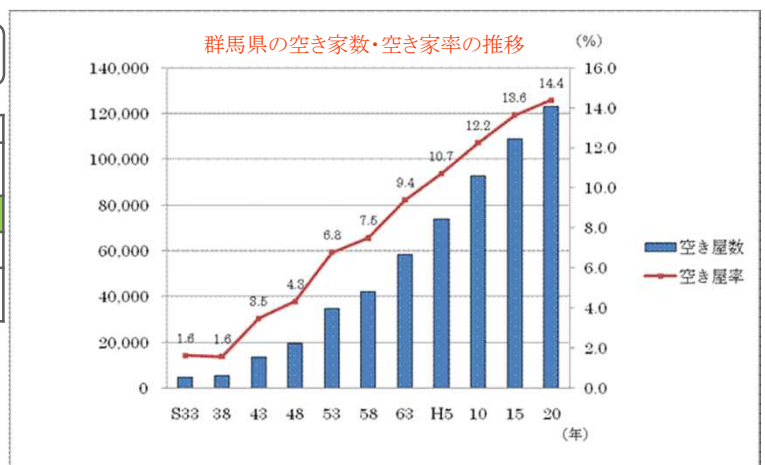
今後も空き家が増えていくと、景観や治安上の問題、廃屋の倒壊などの地域の安全上の問題が増大する可能性があります。

みどり市における空き家・空き家率等

	空き家率	空き家の種類と割合			
		二次的住宅	賃貸用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅
みどり市	13.0%	8.9%	43.2%	1.1%	46.9%
群馬県	14.4%	0.1%	54.2%	4.1%	36.4%
県内市平均	14.5%	4.0%	56.5%	4.4%	35.1%

資料：平成20年住宅・土地統計調査より（総務省）

※二次的住宅とは、別荘等のふだん住んでいる住宅とは別に、たまに寝泊まりしている住宅。  
その他の住宅とは、廃家等誰も寝泊まりすることなく、賃貸用でも売却用でもない住宅。

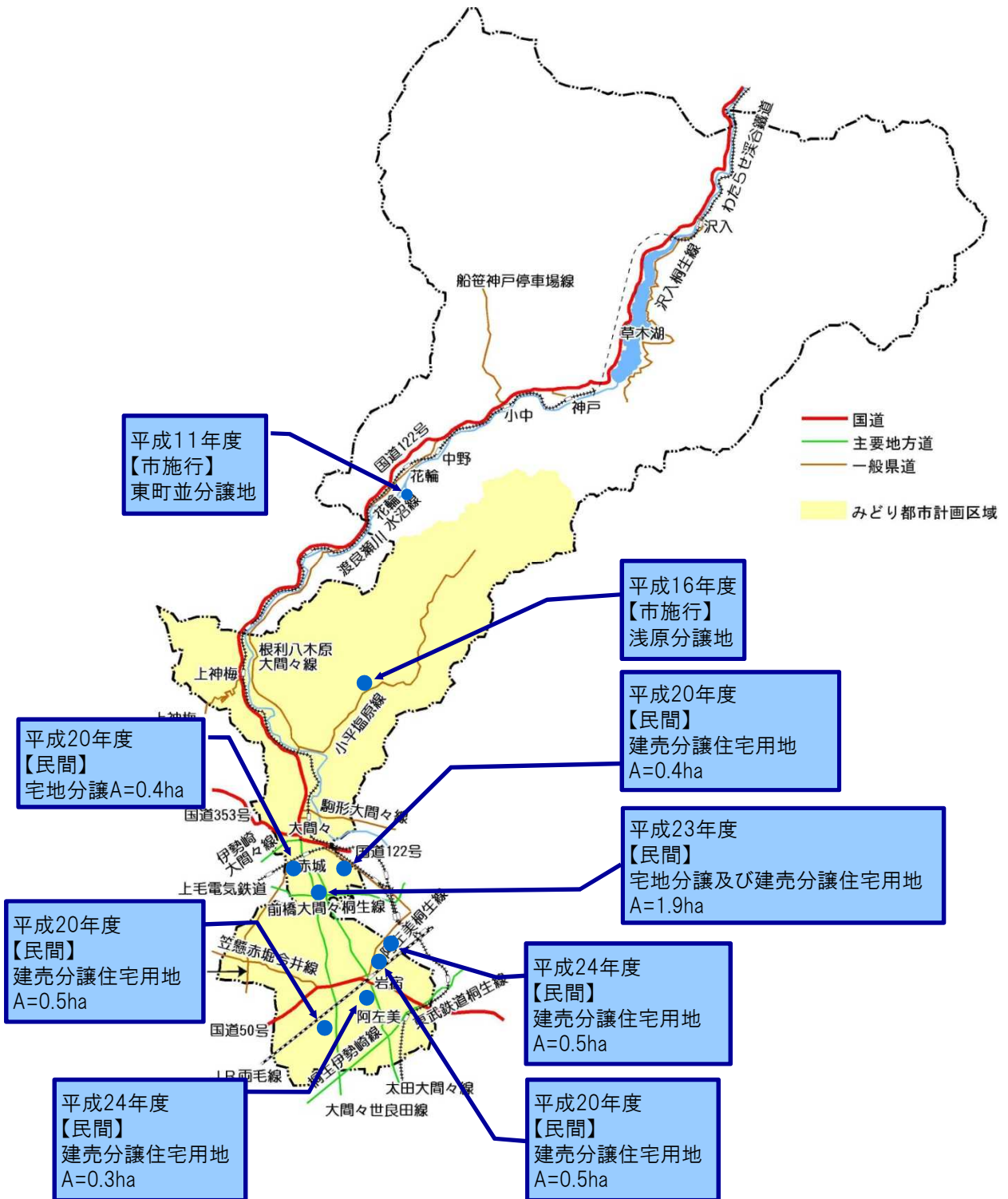


資料：平成20年住宅・土地統計調査 群馬県結果の概要より（県統計情報提供システム）

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-10. 大規模住宅団地等の立地状況

大規模な住宅団地の整備は多くありませんが、笠懸町地区や大間々町地区では、民間による小規模区画の住宅分譲等が多数行われており、農地と住宅地の混在が進行しています。また、道路や下水道など都市基盤整備が不十分な土地でも宅地化が進んでおり、汚水処理人口普及率は、県平均を下回っています。



資料: 都市計画課資料より(民間による宅地分譲については0.3ha以上を抽出)



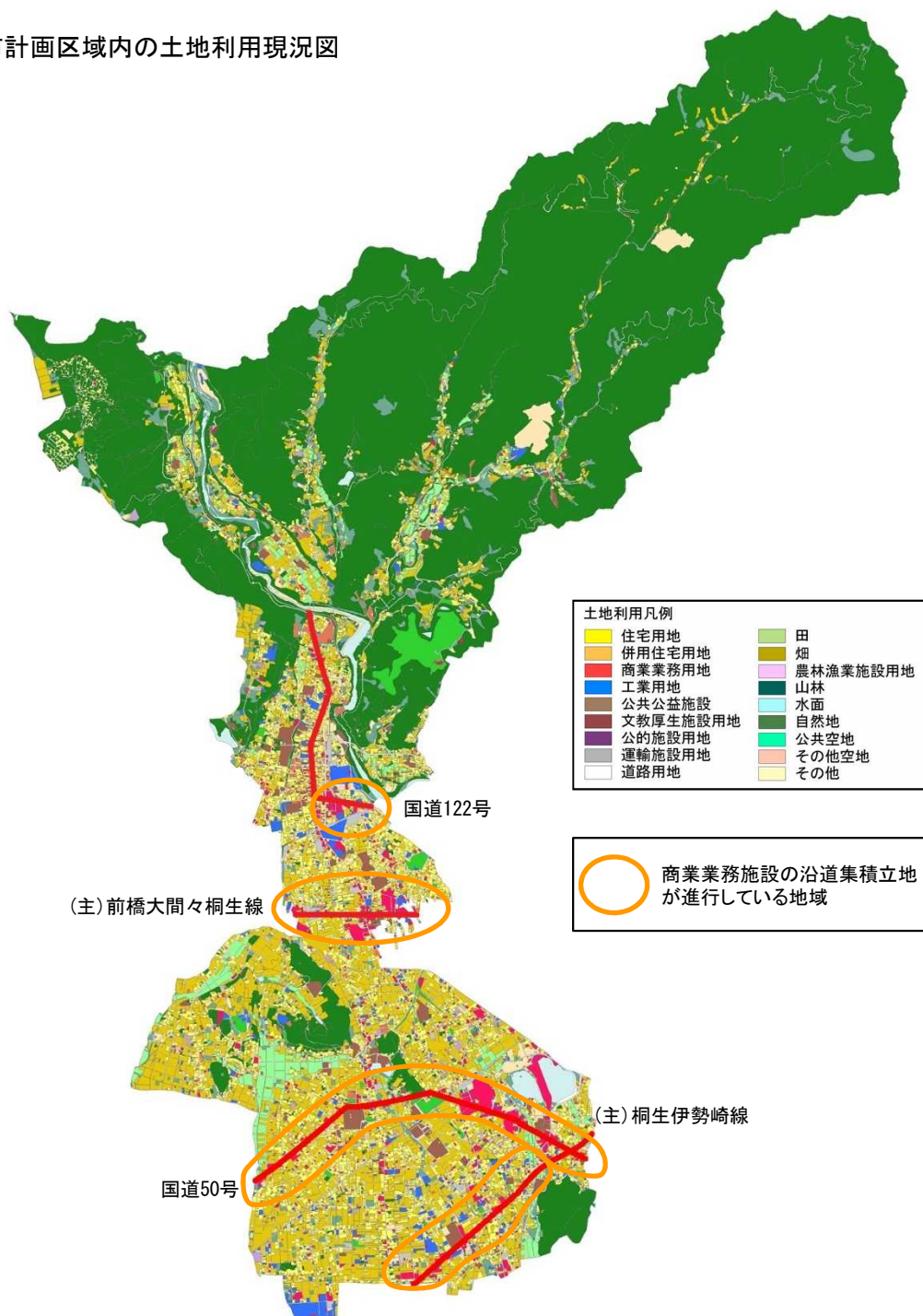
## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-12. 大規模商業施設の立地状況

笠懸町地区では国道50号及び（主）桐生伊勢崎線沿線において、近隣市町村を商圈とする大規模、中規模の商業業務施設の立地集積が進行しています。

大間々町地区では、国道122号及び（主）前橋大間々桐生線沿線において、商業集積が進行しています。

■都市計画区域内の土地利用現況図



資料：みどり市都市計画基礎調査(平成24年)より

## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-13. 道路・交通網の現状

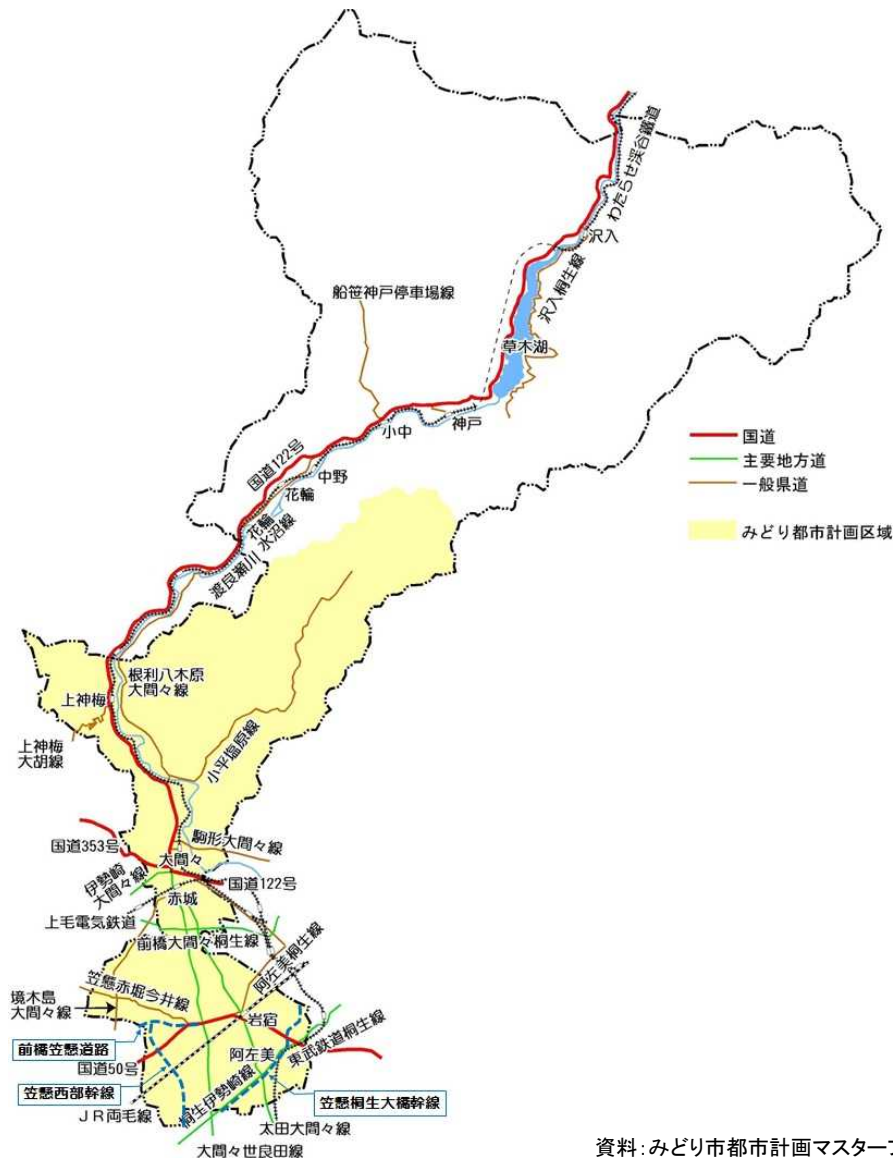
市内を通る広域幹線道路は、笠懸町地区を横断する国道50号、大間々町地区と東町地区を縦断する国道122号、大間々町地区を横断する国道353号があります。また、市中央部から南部には、(主)前橋大間々桐生線、(主)桐生伊勢崎線、(主)大間々世良田線及び(主)太田大間々線があります。

国道50号については、(主)大間々世良田線との交差点鹿交差点から西に向かってバイパス整備が進められています。また、北関東自動車道が全線開通し、太田藪塚ICからのアクセス道路の整備が進められています。(主)桐生伊勢崎線は、桐生大橋から阿左美駅の東側までのバイパス整備が現在進められており、将来的には、阿左美駅以西の拡幅工事が計画されています。

鉄道は、JR両毛線、東武鉄道桐生線、上毛電気鉄道及びわたらせ渓谷鐵道の各線が乗り入れています。

バスについては、東町地区では、路線バスが運行しています。また、笠懸町地区と大間々町地区では、電話で予約して利用するデマンドバスが平成21年から運行しています。

#### ■主要な道路、鉄道



資料：みどり市都市計画マスタープラン(平成22年)より

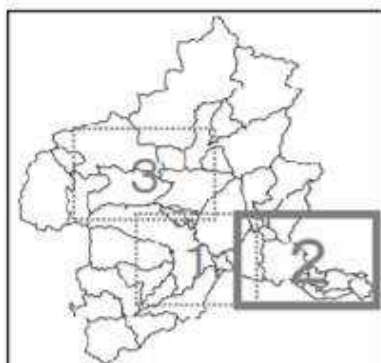
## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-14. 主要渋滞箇所の現状

隣接都市間を結ぶ幹線道路ネットワークは、通勤・通学など多方面に利用されていますが、以下の様な渋滞対策が必要な箇所が点在しています。

当市の地域経済活動の活発化や移動の速達性を向上させるため、各道路管理者と連携した交差点改良等の渋滞対策が必要です。

## 2 群馬県東部



凡例	
● 箇所	○ 駅前
● 箇所(緑地)	● 大型店舗
■ 区界	○ 主要施設
■ エリア	○ 庁舎
○ 主要施設	● 市役所・町役場
○ 主要施設	● JR
○ 主要施設	● 私鉄
— 高速道路	
— 一般国道以上	
— 市町村道	

エリア…都市部等、広域区間・箇所が面的に広がっており、複数路線に跨り複数の主要渋滞箇所を含む区域  
 区 間…交差点等が連担するなど、速度低下箇所が連続しており、複数の主要渋滞箇所を含む区間  
 □ …群馬県東部で代表的な主要渋滞箇所

※出典：群馬県域移動性(モビリティ)・安全性向上検討委員会作成の「地域の主要渋滞箇所」より

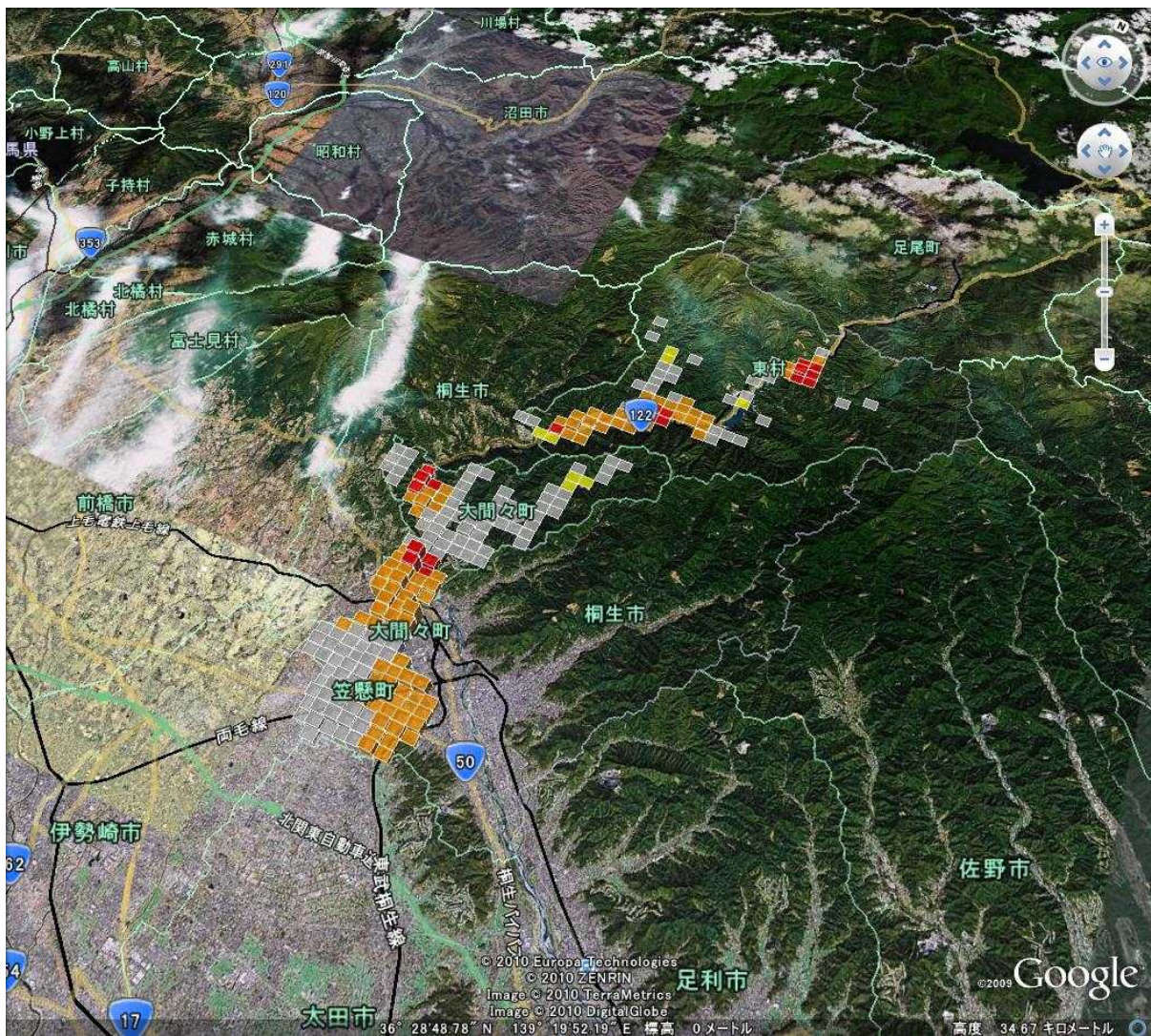
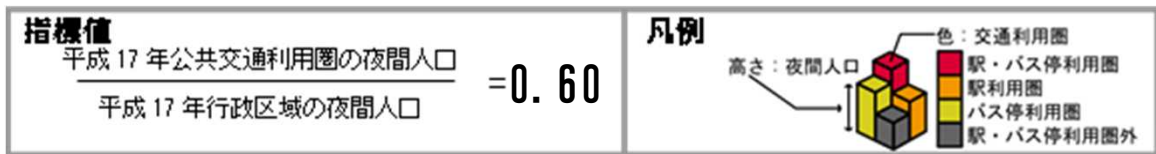
## 2. みどり市のまちづくりの現状と課題

### 2-15. 公共交通のカバード

公共交通利用圏と行政区域全体の夜間人口比率により、居住人口に対する公共交通のカバードを示す指標値が表示されます。

この数値が高いほど、都市の中で公共交通を利用可能な人が多いこととなりますが、当市は、笠懸町南部などの公共交通利用圏外に多くの市民が居住しているため、「0.60」と低い数値となり、自動車依存型の社会が形成されていることとなります。

このため、超高齢社会がますます進み、移動が負担となる市民が増加する中で、これらの公共交通空白地帯の解消と公共交通の維持・活性化に向けた取組が必要です。





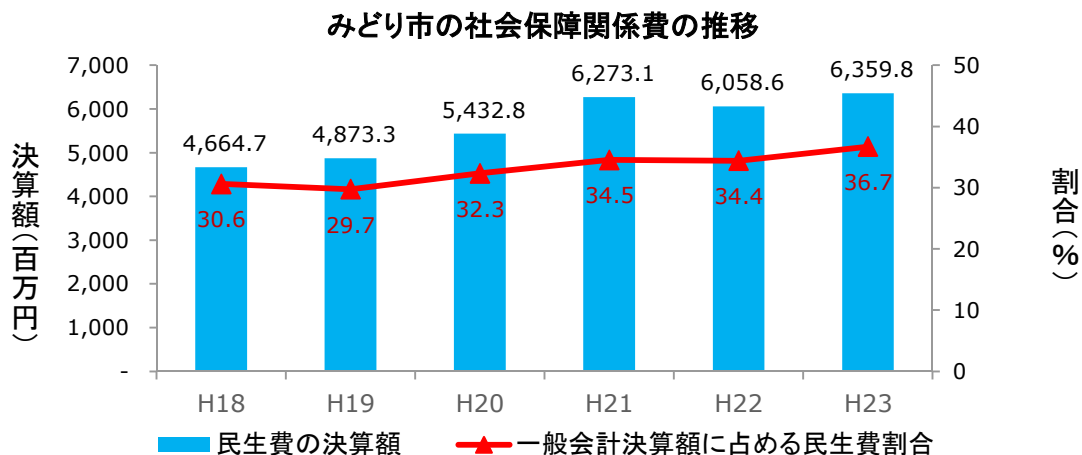
### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-1. 社会保障関係費の増加

当市の民生費については、平成18年度の決算額が4,664.7百万円、一般会計に占める民生費割合が30.6%でしたが、年々増加傾向にあり、平成23年度の決算額が6,359.8百万円、同割合が36.7%になっています。

今後も増加することが見込まれ、生産年齢人口が減少していく中で負担が大きくなっていくことが予想されます。

※民生費とは、子どもや高齢者、障がい者の福祉サービス、生活保護などの経費です。

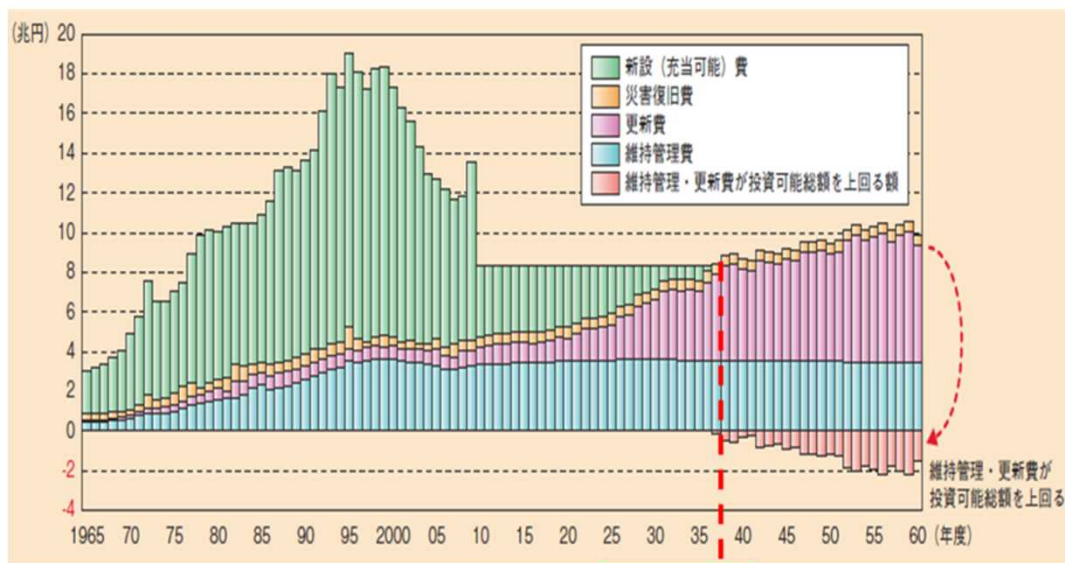


資料: みどり市決算資料より

#### 3-2. 社会資本整備費及び維持管理費用の増加

限られた予算の中、「維持管理・更新費」の増大により、新しい道路や下水道などがつくれなくなるだけでなく、穴のあいた道路などの補修工事ができない、上下水道管の修復作業ができないなど、生活基盤を支える公共施設が使えなくなる地域がでてくる可能性があります。

「社会資本の維持管理・更新費」の推計



資料: 国土交通省「平成21年度国土交通白書」から作成

2037年  
(平成49年)

### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-3. 人口減少と高齢化の進展

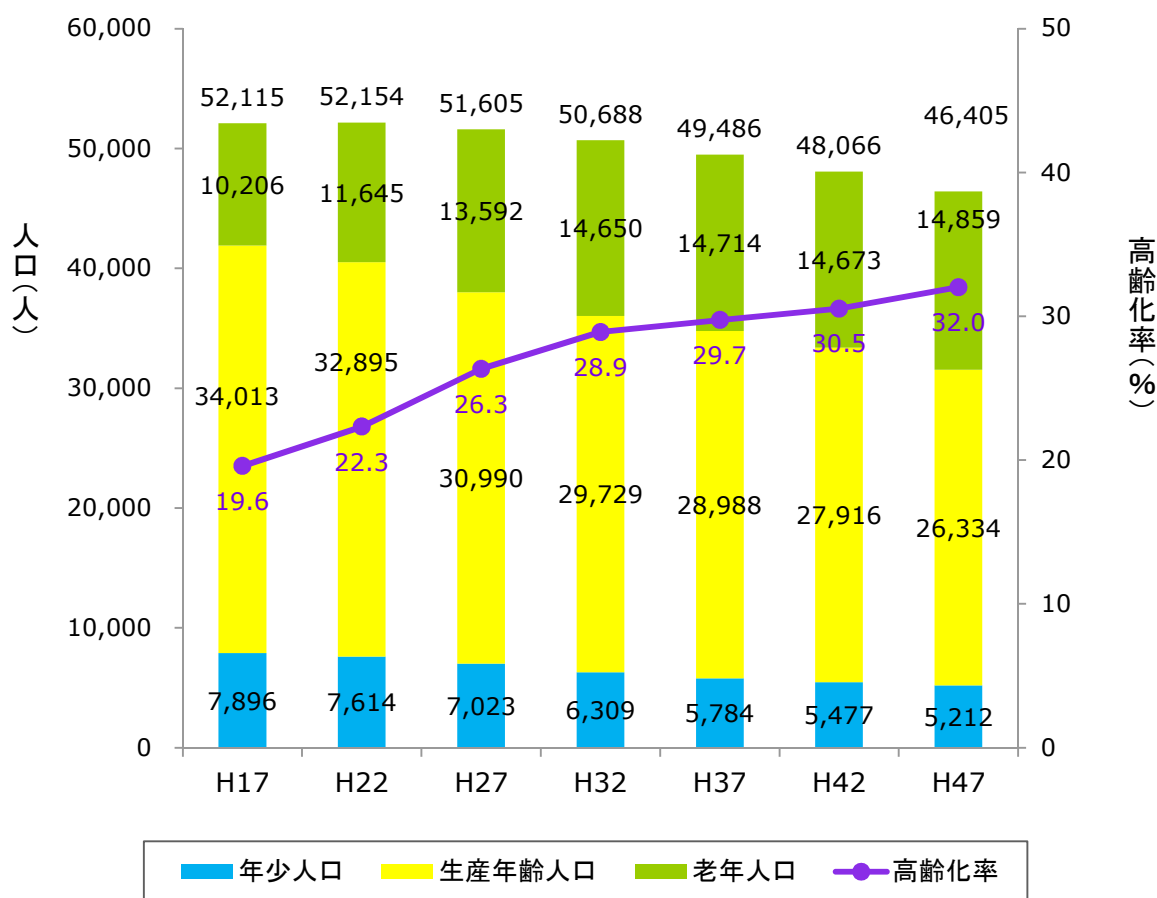
当市における平成17年以降の人口は平成22年をピークに年々減少していくと推計されています。平成22年に52,154人であった人口が、平成47年には46,405人と人口の約1割の5,700人程度減少すると推計されています。

また、3年齢区分別人口は、平成22年以降生産年齢人口と年少人口は減少傾向となっています。

特に、15歳から64歳までの生産年齢人口は、平成22年から平成47年までの間に約6,500人の減少と推計されており、減少が顕著となっています。さらに、0歳から14歳までの年少人口も、平成22年から平成47年までの間に約2,400人の減少となり、平成22年の70%近くにまで減少すると推計されています。

なお、65歳以上の高齢者人口については、平成47年には、15,000人弱となり、高齢化率も32.0%になると推計されています。

みどり市の年齢3区分人口と高齢化率の将来推計



出典：『日本の市区町村別将来推計人口』（平成20年12月推計）国立社会保障・人口問題研究所より作成

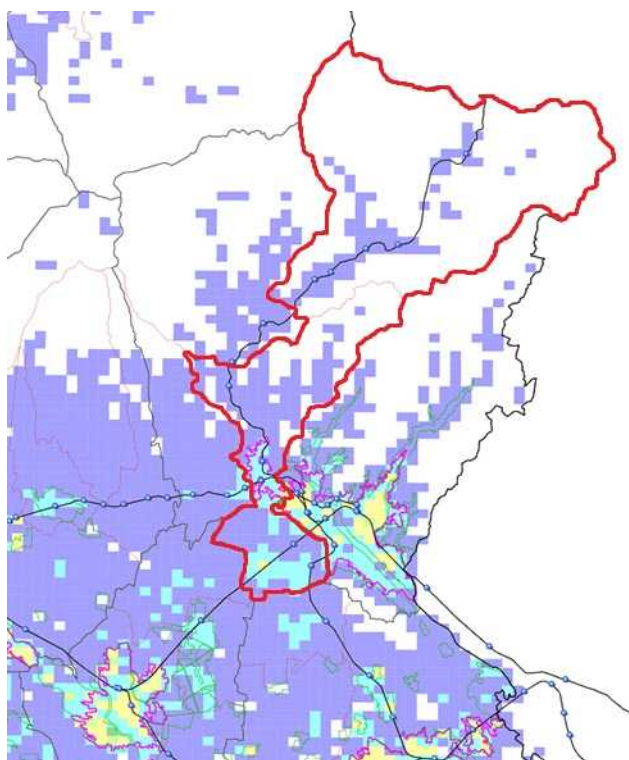
### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-4. 地域別の人口の推計

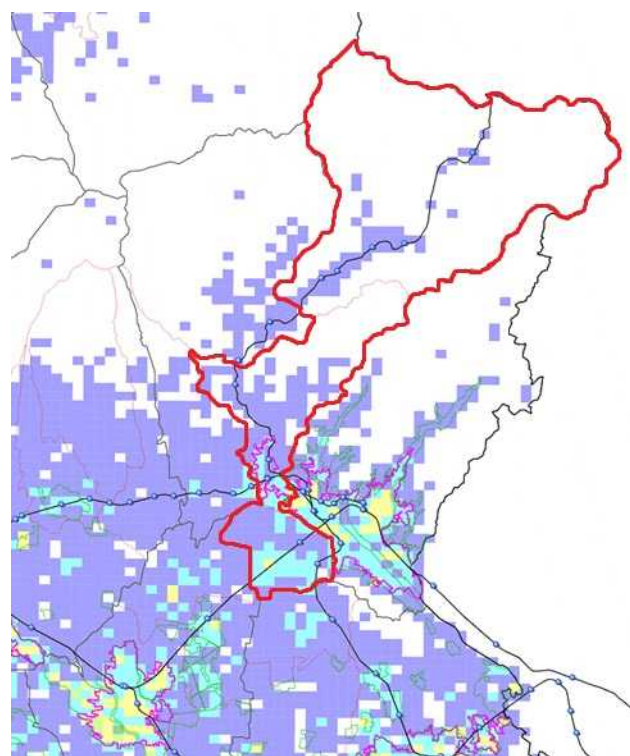
平成22年の国勢調査にもとづく500mメッシュ毎の人口分布と将来人口推計にもとづく平成32年の人口分布を比較すると、全体的に都市が縮小していることがわかります。

市全体では、大間々町地区のD I D地区の赤城駅周辺、笠懸町地区の阿左美駅西側、岩宿駅南部の地域が、他の地区より人口分布が高い値を示しています。

10年後には、大間々町地区の北部、東町地区などでは人口の分布がないメッシュの地区が多く、かつ散在して発生すると予測されます。



人口分布図(平成22年国勢調査 500mメッシュ)  
資料:「国勢調査」(平成22年度、総務省)より作成



将来人口推計図(平成32年 500mメッシュ)  
資料:「国勢調査」(平成22年度、総務省)より推計

仕様	表示内容
—	行政界
—	合併前行政界
—	市街化区域(用途地域別)
—	DID範囲
—	鉄 道
●	鉄道駅

人口数	
□	0人
■	1-500人未満
■	500-1000人未満
■	1000-1500人未満
■	1500-2000人未満
■	2000-2500人未満
■	2500-3000人未満
■	3000人以上

# 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

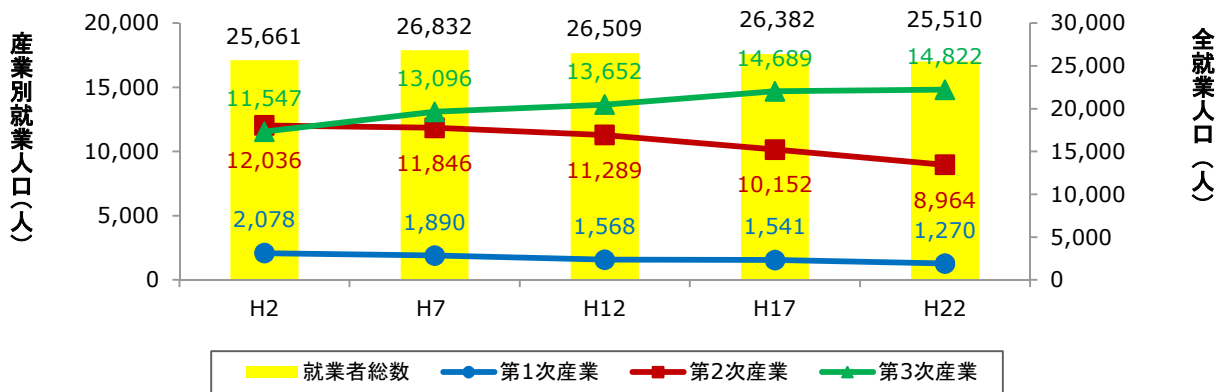
## 3-5. 商品販売額及び製造品出荷額の推移

産業別就業人口において、就業者総数は、平成7年が最も多く、それ以降減少しています。産業別では、平成2年から平成22年の20年間に、第1次産業が4割減少し、第2次産業も2.5割減少していますが、第3次産業は3割増加し、就業人口が14,822人となり、当市の全就業人口の6割を占めています。

商業において、商店数は、平成3年から平成19年の16年間で一時的に増加しましたが、全体では減少しています。従業者数及び年間商品販売額は、平成3年から平成11年の8年間は増加しましたが、それ以降減少し、年間商品販売額は、ピーク時と比較して2割減少しています。

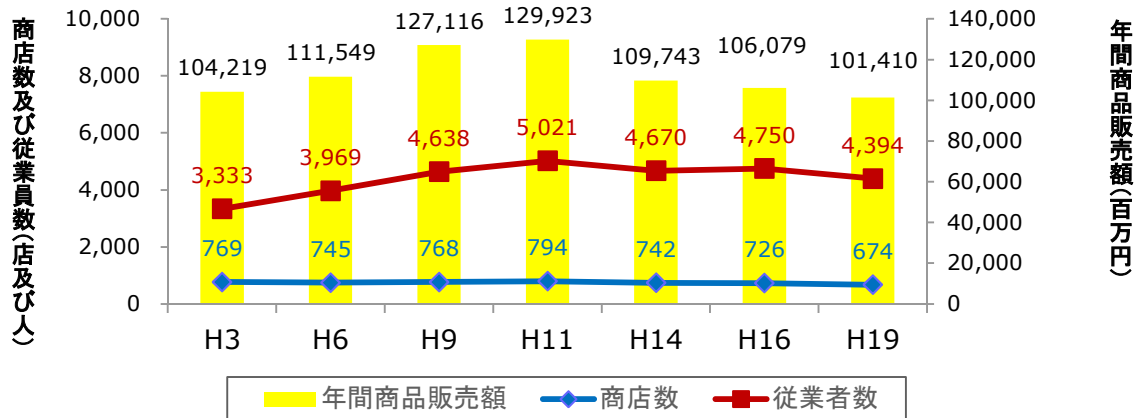
工業において、事業所数は平成10年がピークとなり、それ以降減少しています。従業者数は、平成19年、平成20年には一時的に増加しましたが、全体的には減少傾向にあり、平成8年から平成22年の14年間で3.5割減少し、平成22年の従業者数は3,545人となっています。製造品出荷額等は、14年間で増加と減少を繰り返していますが、全体的には減少傾向にあります。

みどり市の産業別就業人口の推移



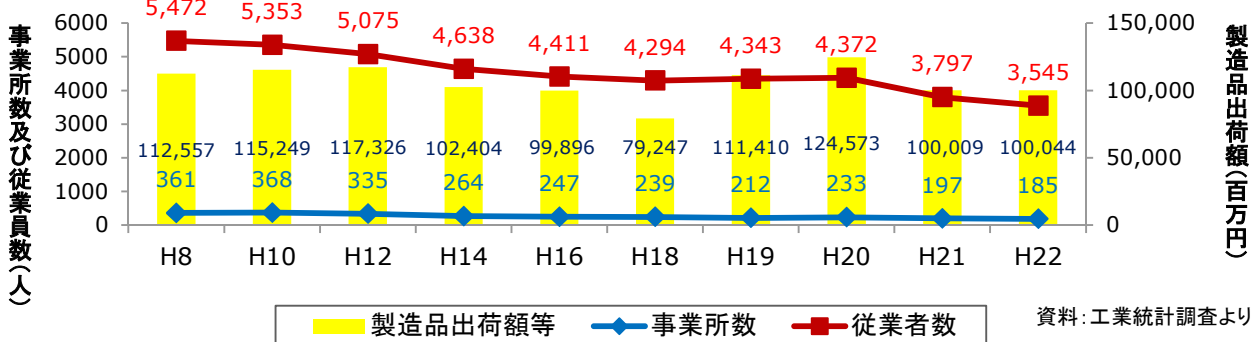
資料：国勢調査より

みどり市の商店数・従業者数・年間商品販売額の推移



資料：商業統計調査より

みどり市の事業所数・従業者数・年間製造品出荷額の推移



資料：工業統計調査より

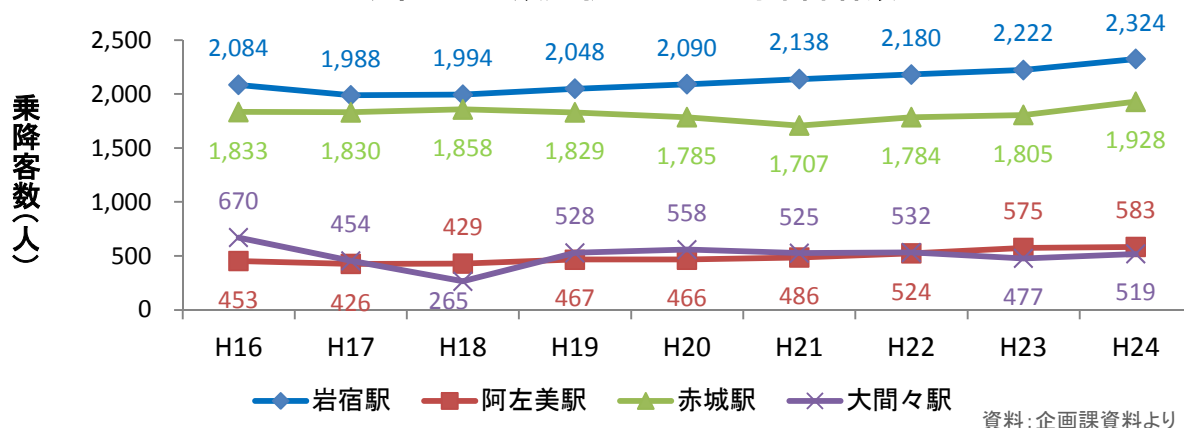
### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-6. 公共交通の推移

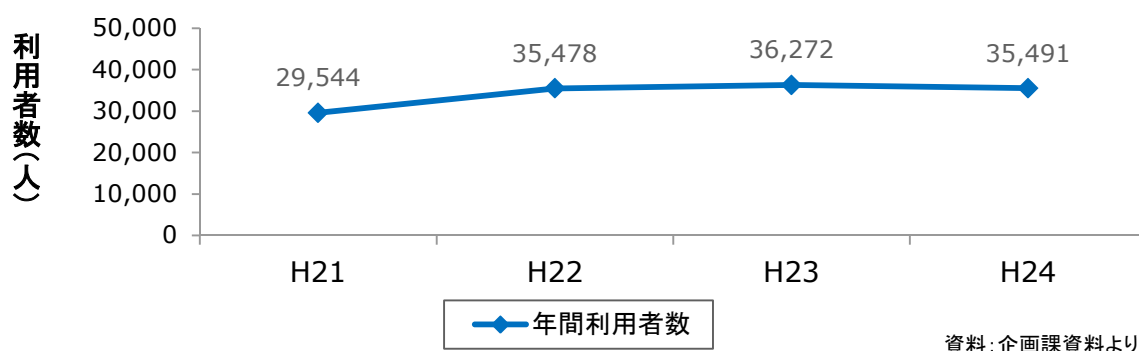
みどり市の公共交通の利用者は、路線バスを除き、横ばいから微増の傾向にあります。鉄道において、赤城駅は駅前広場を改修し、ロータリーを設置するなど利便性の向上が図られていますが、岩宿駅北口や阿左美駅の駅前広場は、ロータリーもなく、狭いため、タクシーや送迎の自動車で混雑し、危険な状況が続いています。また、デマンドバスの停留所が駅前に設置できていません。

現在は、横ばい状態の公共交通の利用者ですが、今後は人口減少による利用者減少も予想されます。

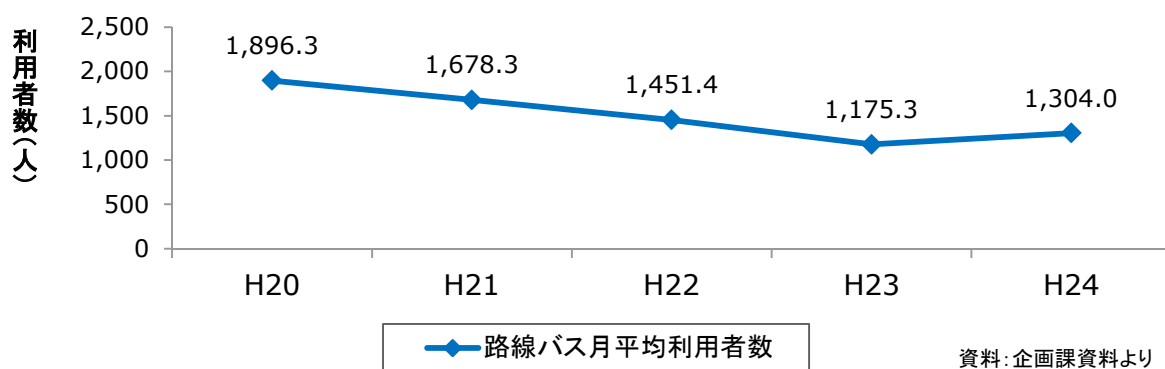
みどり市の主な鉄道駅の一日常乗降客数



みどり市のデマンドバス利用者数



みどり市の路線バス利用者数



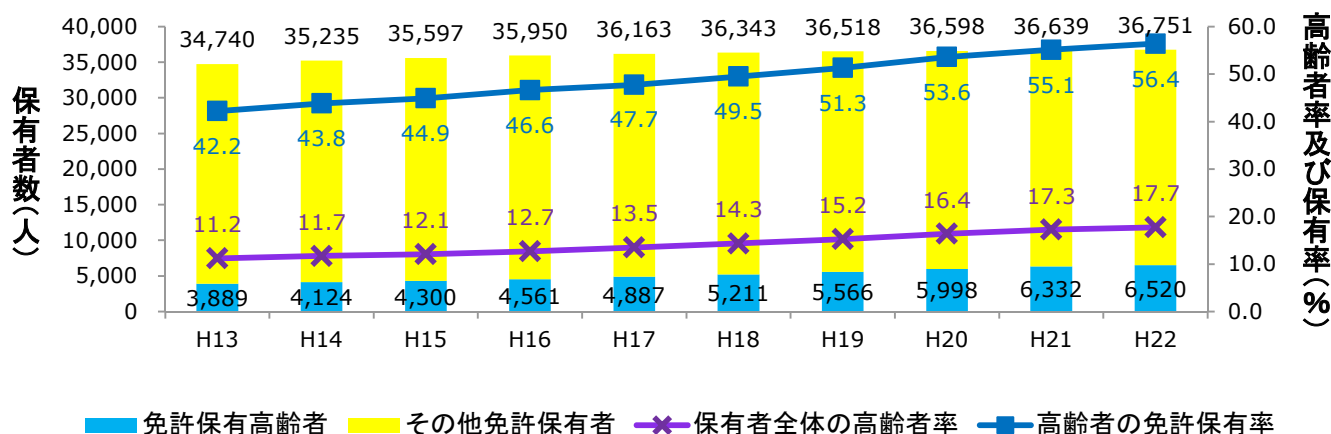
### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-7. 高齢者の自動車利用の増加

みどり市の高齢者における免許保有者数は、年々増加しており、平成22年で6,520人に達し、保有率は56.4%となっています。そのため、高齢者以外の免許保有者数が減少しているものの、全体の保有者数は増加し続けています。

また、高齢者の事故発生件数も年々増加しており、平成13年と平成22年を比較すると約1.8倍増加しています。今後も高齢化の進行とともに増加することが予想されるため対策が必要です。

高齢者の運転免許保有



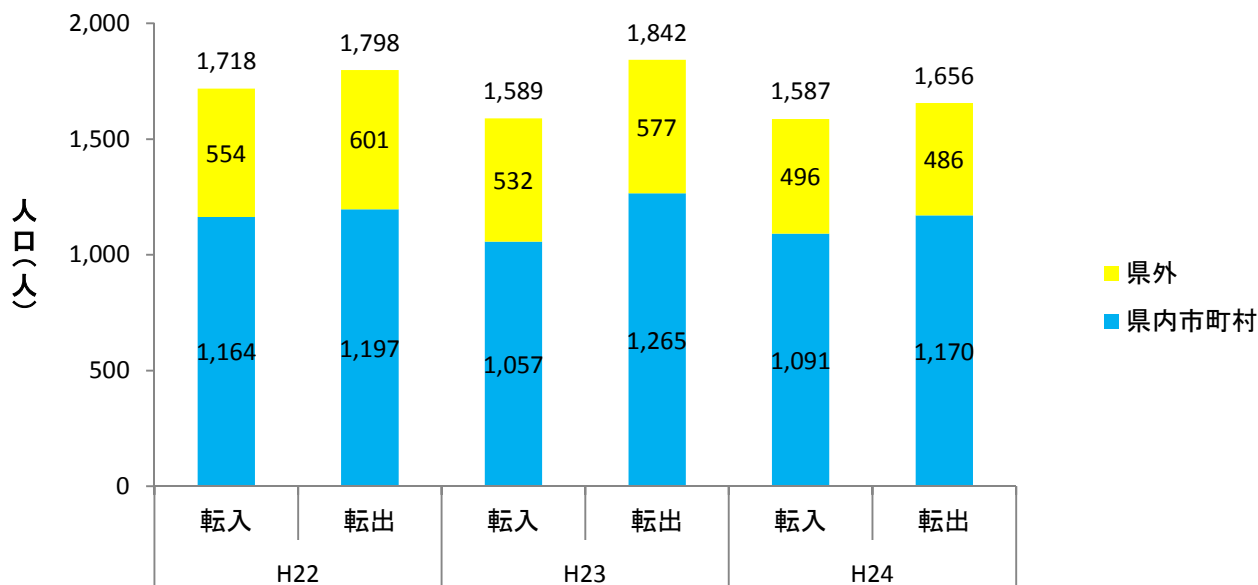
資料:「第9次みどり市交通安全計画」より

#### 3-8. 人口の流動化

みどり市の転入及び転出による人口移動は、転入者数よりも転出者数が多く、人口減少の一因と考えられます。少子化により人口の自然増が見込まれないため、この傾向が続くとさらに人口減少が進むと予想されます。

また、転入元及び転入先は、ともに県内市町村が3分の2、県外が3分の1となっています。

転入・転出による人口移動

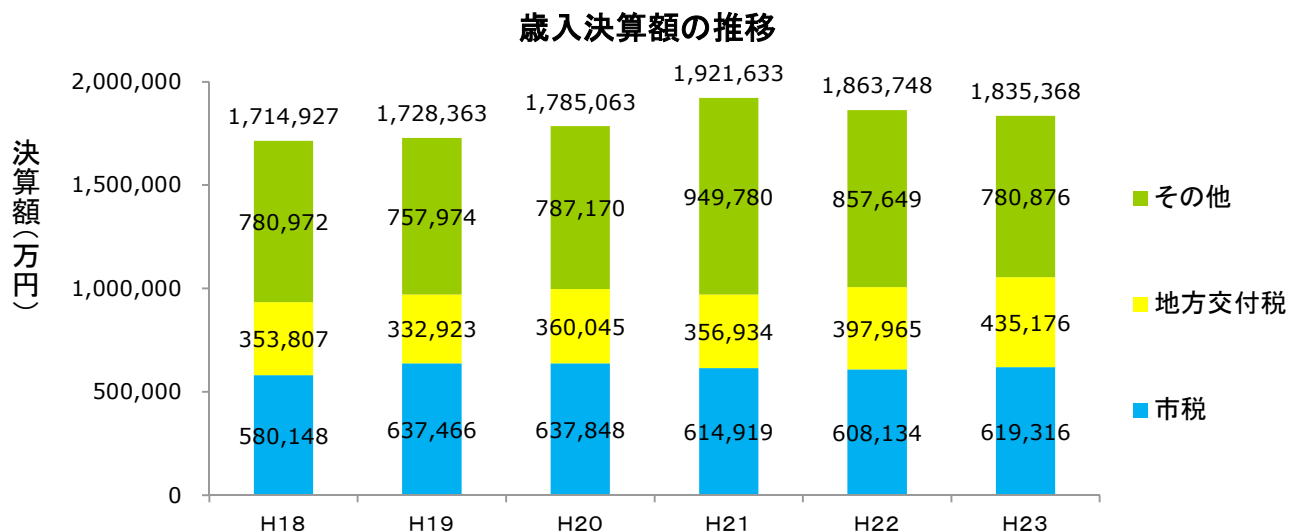


資料:みどり市住民基本台帳より

### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-9. 財政的制約の見通し

人口減少による税収の減少や超高齢社会の進展による社会保障費の増加により、その他の歳出経費を削減するなど、財政的制約がさらに大きくなることが想定されます。

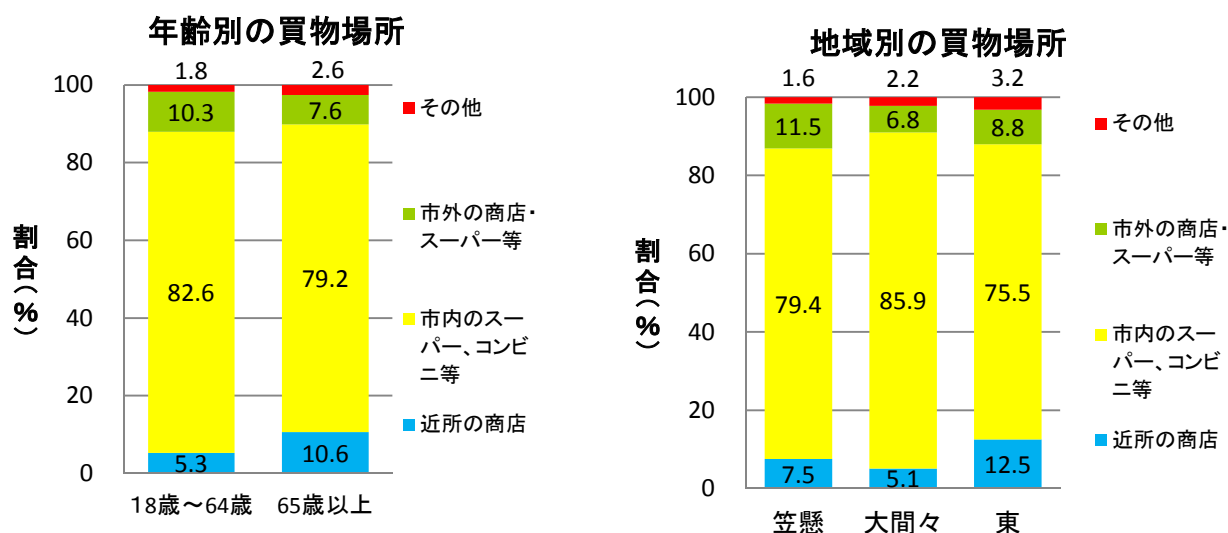


資料: みどり市決算資料より

#### 3-10. 買物弱者の増加

主な日用品や食料品の買物場所は、年代、地域に関係なく市内のスーパー、コンビニ等が最も多くなっており、65歳以上の高齢者や東町地区では、近所の商店の利用者が1割を超えているという特徴があります。

商店の数は減少傾向にあることから、今後、交通手段を持たない高齢者等が買物弱者とならないための対策が見込まれます。



資料: みどり市市民アンケート(平成21年度～平成24年度)より

### 3. みどり市に今後生じる望ましくない状況

#### 3-11. 将来のみどり市民のくらしや行政運営に生じる問題

人口減少・超高齢社会をはじめ、都市の現状や将来予測から心配な社会情勢が今後進行することで、市民のくらしや行政運営に次のような望ましくない状況が生じると考えられます。

#### 市民のくらしにおける問題

##### (1)生活が不便になる

- ①学校や公共公益施設の統廃合などの影響で、**移動距離や移動時間が増加**します。
- ②都市機能が分散しているため、**移動時間の増加**や公共交通の維持ができず、買い物弱者などの**交通弱者が増加**します。
- ③社会保障費の増大により、都市基盤整備の新設、維持更新費用が減少し、暮らしを支える**インフラの機能が低下**することが予想されます。

##### (2)地域内の自助・共助ができなくなる

- ①居住人口の減少、単身高齢者世帯等の増加により、**地域コミュニティが維持できなくなります**。
- ②特に、東地区では、居住人口が一層減少することとなり、**地域コミュニティの崩壊**が心配されます。

##### (3)生活環境が悪化する

- ①生産年齢人口の減少による労働力や雇用、消費の減少により、企業や商業施設が撤退し、**空き家・空き店舗・空き地が増加**します。
- ②商店街では、空き店舗が増え、山村地域では、居住人口の減少による空き家の増加が進展し、**景観や治安の悪化**、人の手が行き届かない自然環境の荒廃や鳥獣被害、不法投棄の増加が心配されます。
- ③都市基盤整備が整わない地域での土地利用の混在による**公害トラブルの増加**や交通渋滞の発生による**移動時間の増加**などが心配されます。

##### (4)雇用が減る

- ①生産年齢人口の減少による消費の減少により、**企業や商業施設が撤退**し、雇用が減少します。

#### 行政運営における問題

##### (1)行政コストが増える

- ①土地利用の混在や拡散した都市構造の影響で、新たな道路・上下水道が必要となり、**都市基盤整備の維持管理費が増加**します。
- ②空き地・空き家の増加などで**治安や景観が悪化**したり、良好な自然環境が減少し、生活環境を維持するためのコストが増えます。
- ③**コミュニティの力が低下**し、地域を維持するための行政コストが増えます。
- ④高齢者などの**交通弱者の増加**や都市機能の拡散によるデマンドバスなどの運行経費の増大など交通弱者対策費が増加します。

##### (2)交流人口減少による税収減

- ①居住者の減少や高齢化により、地域文化の衰退、歴史的・文化的資産の荒廃が進み、**地域の魅力が低下**し、交流人口が減少することで、税収が減少します。

##### (3)流入人口減少による税収減

- ①土地利用の混在などによる**生活環境の悪化で、魅力がなくなり**、流入人口が減少し、税収が減少します。
- ②**公共交通が衰退**し、生活が不便な魅力のない地域となり、流入人口が減少し、税収が減少します。
- ③総人口の減少が、公共公益施設(病院・学校・図書館等)の利用者減少を招き、施設の統廃合が進んで、**生活が不便になる**地域がでます。生活が不便な地域では、流入人口が減少し、税収が減少します。
- ④**企業や商業の撤退**により、空きビル・工場跡地・空き店舗が増え、**生活環境が悪化**し、流入人口が減少し、税収が減少します。

##### (4)居住人口減少による税収減

- ①**地域から企業や商業が撤退**し、雇用の減少・人材の流出により、居住人口の減少を招き、税収が減少します。



# 4. みどり市のまちの検証カルテ

## 4-1. まちの特性に応じた施策の検討

ぐんま“まちづくり”ビジョンに規定している「ぐんまのまちの将来像」を実現するための「基本方針」に基づいて今後のまちづくりを推進するため、みどり市において将来生じる課題を検証し、どのような施策を実施したらよいか検討します。

①現在の状況（売場効率や製造品出荷額）と②将来の状況（人口増減傾向や公共交通徒歩圏人口など）に関する指標を用いて、「県民の暮らし」と「行政運営」で生じる課題の中で対策が必要になる課題を抽出し、課題を解決・回避するための施策を選定します。  
 施策選定にあたっては、各市町村の「強み」を生かすことも配慮します。

- ◆ 検証で使用する指標は、次表のとおり10項目を選定し、指標の値は、まちづくりに当面支障がない値(○)と課題悪化に影響する値(▲)に分類します。
- ◆ 各将来課題に影響を与える指標を次のとおり選定します(●)(以下の表)。
- ◆ (例)将来課題「生活が不便になる」は、①・④・⑦・⑧・⑨・⑩の指標が影響します。

指標	現在の状況			将来の状況						
	①市街化区域可住地人口密度(人/ha)(H24年度末)	②売場効率(万円/坪)(H19年)	③製造品出荷額(万円/従業者)(H23年)	④人口増減傾向(H32年)H22年人口を100とした場合の指数	⑤生産年齢人口減少率(H22→H32)	⑥高齢化率(H32年)	⑦旧市街地人口増減(H22→H32)	⑧新市街地公共交通徒歩圏外人口増減(H22→H32)	⑨農村地域公共交通徒歩圏外人口増減(H22→H32)	⑩農村地域公共交通徒歩圏人口増減(H22→H32)
○(当面支障ない) ▲(課題悪化に影響)の基準	○:40人/ha以上 ▲:40人/ha未満	○:県平均249万以上 ▲:県平均249万未満	○:県平均3847万以上 ▲:県平均3847万未満	○:指数100以上 ▲:指数100未満	○:減少率10%未満 ▲:減少率10%以上	○:高齢化率30%未満 ▲:高齢化率30%以上	○:増加 ▲:変化なし、減少	○:減少 ▲:変化なし、増加	○:減少 ▲:変化なし、増加	○:増加 ▲:変化なし、減少
使用データ	①平成25年度「都市計画状況調査」(平成25年3月末現在)	②平成19年商業統計調査(第7表)	③平成23年工業統計調査	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	④国立社会保障人口問題研究所データより作成	平成22年国勢踏査より推計	平成22年国勢踏査より推計	平成22年国勢踏査より推計	平成22年国勢踏査より推計
推計区域	①市街化区域	②～⑥市全域				⑦旧市街地 昭和55年DID地域	⑧新市街地 旧市街地以外の市街化区域	⑨農村地域 用途白地地域 ●公共交通徒歩圏 鉄道駅から500m圏内 バス停から300m(市町村委託・デマンドを除く)圏内		

将来課題 ↓	「●」のある将来課題に影響を与える指標									
	①市街化区域可住地人口密度(人/ha)(H22年度末)	②売場効率(万円/坪)(H19年)	③製造品出荷額(万円/従業者)(H22年)	④人口増減傾向(H32年)H17年人口を100とした場合の指数	⑤生産年齢人口減少率(H17→H32)	⑥高齢化率(H32年)	⑦旧市街地人口増減(H17→H32)	⑧新市街地公共交通徒歩圏外人口増減(H17→H32)	⑨農村地域公共交通徒歩圏外人口増減(H17→H32)	⑩農村地域公共交通徒歩圏人口増減(H17→H32)
生活が不便になる	●			●			●	●	●	●
家計の支出が増える	●						●	●	●	●
地域内の自助・共助が維持できなくなる	●			●	●	●	●			●
生活環境が悪化する	●			●	●		●	●	●	●
住民の安全・安心な暮らしが脅かされる	●						●	●	●	●
雇用が減る	●	●	●	●	●		●			●
行政コストが増える	●					●	●	●	●	●
税収が減る(交流人口が減る)	●	●				●	●			
税収が減る(流入人口が減る)	●	●	●	●	●		●			
税収が減る(定住人口が減る)		●	●	●	●	●				

# 4. みどり市のまちの検証カルテ

## 4-2. 検証結果

各指標を用いて、「県民の暮らし」と「行政運営」で生じる課題の中で対策が必要になる課題を抽出した結果を以下に示します。

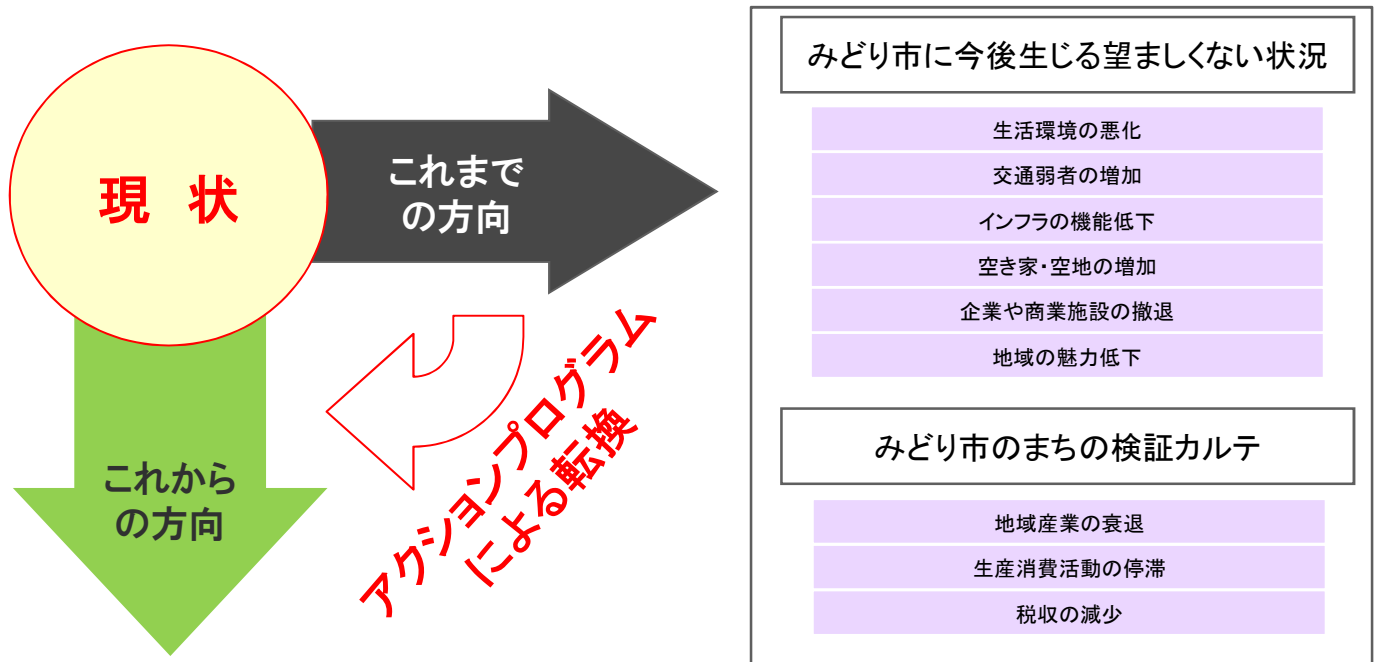
課題	①市街化区域 可住地人口密度 (人/ha) (H24年度末)	②売地単価 (万円/坪) (H19年)	③建設品出荷 額 (万円/従業員) (H23年)	④人口増減 傾向 (H32年) H22年人口を 100とした 場合の指数	⑤生産年齢人 口減少率 (H22→H32)	⑥高齢化率 (H32年)	⑦旧市街地 人口増減 (H22→H32)	⑧新市街地 公共交通従 歩圏外人口 増減 (H22→H32)	⑨農村地域 公共交通従 歩圏外人口 増減 (H22→H32)	⑩農村地域 公共交通従 歩圏内人口 増減 (H22→H32)	課題の 検証結果  ▼：要対策 ●：経過観察
○ 当面支障がな い基準	○：40人/ ha以上	○：県平均 249万以上	○：県平均 3847万以 上	○：指数 100以上	○：減少率 10%未満	○：高齢化 率30%未満	○：増加	○：減少	○：減少	○：増加	
▲ 課題悪化に影 響する基準	▲：40人 /ha未満	▲：県平均 249万未満	▲：県平均 3847万未 満	▲：指数 100未満	▲：減少率 10%以上	▲：高齢化 率30%以上	▲：変化な し、減少	▲：変化 なし、増 加	▲：変化な し、増加	▲：変化な し、減少	
検証結果		▲215	▲2492	▲96.0	▲11.8%	▲30.1%	▲減少		▲増加	▲減少	
生活が不便 になる	—			▲			▲	—	▲	▲	▼
家計の支出が 増える	—						▲	—	▲	▲	▼
地域内の自 助・共助が維 持できなくな る	—			▲	▲	▲	▲	—		▲	▼
生活環境が 悪化する	—			▲	▲		▲	—	▲	▲	▼
住民の安全・ 安心なくらし が脅かされる	—						▲	—	▲	▲	▼
雇用が減る	—	▲	▲	▲	▲		▲	—		▲	▼
行政コストが 増える	—					▲	▲	—	▲	▲	▼
税収が減る (交流人口が 減る)	—	▲				▲	▲	—			▼
税収が減る (流入人口が 減る)	—	▲	▲	▲	▲		▲	—			▼
税収が減る (定住人口が 減る)	—	▲	▲	▲	▲	▲		—			▼

# 5. 「まちの将来像」の実現に向けた都市づくりの基本目標

## 都市づくりの基本目標

「3. みどり市に今後生じる望ましくない状況」及び「4. みどり市のまちの検証カルテ」で出された望ましくない状況を回避し、望ましい状況への転換を図るため、「都市づくりの基本目標」を以下のとおり定めます。

これにより、本市の最上位計画である「みどり市総合計画」に掲げる将来のまちの姿を実現します。



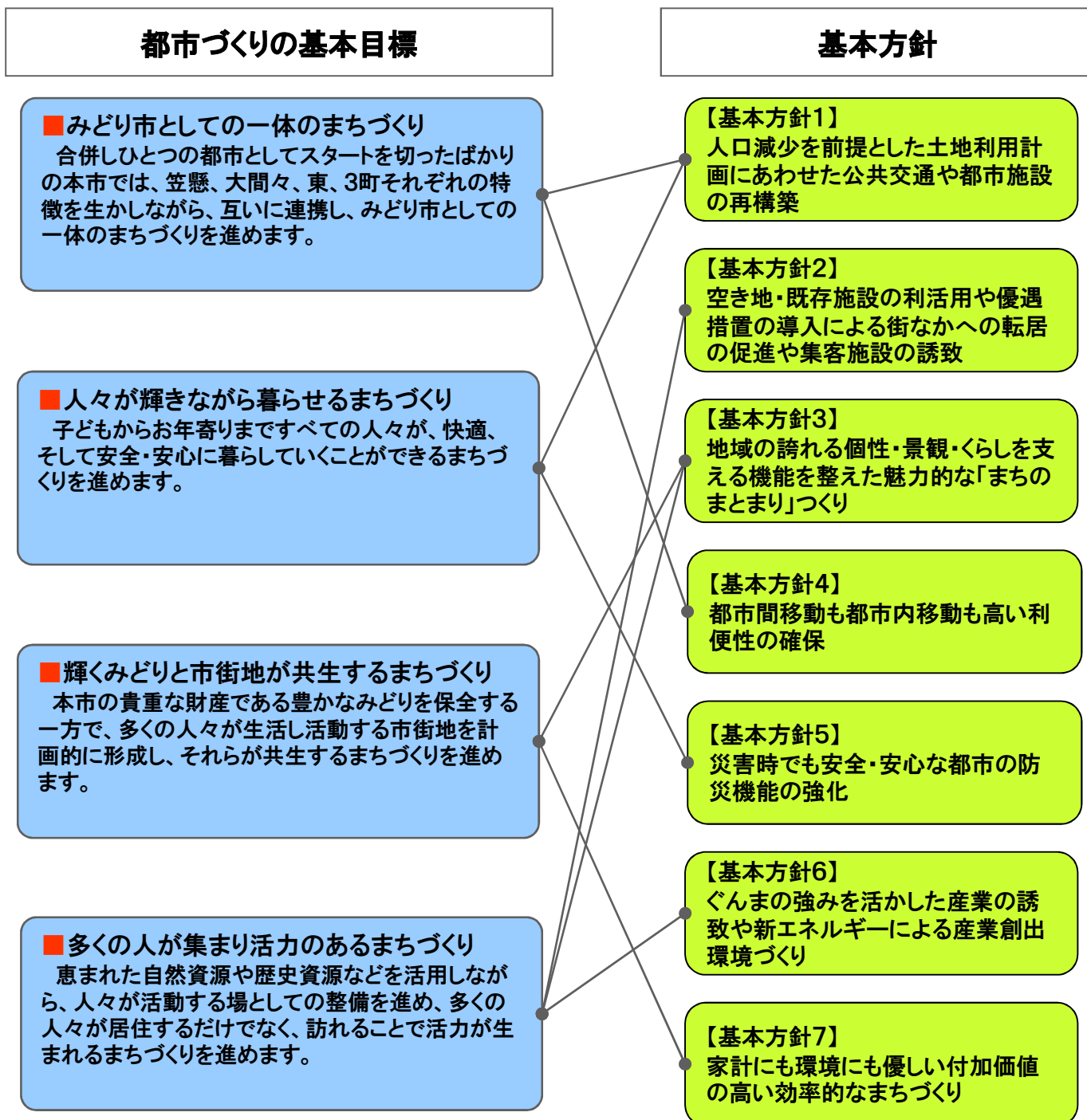
みどり市が目指す将来のまちの姿  
(みどり市総合計画)

輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市

## 6. みどり市の基本方針と取組内容

### 6-1. 都市づくりの基本目標を達成するための基本方針

みどり市は、特徴の異なる3町村が合併しており、歴史・文化の違いや地形的条件によってそれぞれの地域の魅力や現在抱えている問題も異なります。そのため、「都市づくりの基本目標」を達成するための基本方針として、「ぐんま“まちづくり”ビジョン」に掲げられている基本方針から、以下の7つを選択しました。



# 6. みどり市の基本方針と取組内容

## 6-2. 基本方針に基づく取組み

みどり市は、3つの町村が合併したことにより地形的に南北に長く、また公共施設の統廃合や都市機能の分散により、市内の移動距離・移動時間が増加しています。そのため、市内に4路線ある鉄道をはじめとした公共交通機関の利便性向上、都市計画道路の整備などによるアクセス性の向上が必要ですが、同時に幹線道路周辺の開発対策も求められます。

また、異なる特色を持つ地域が合併したことから、自然や歴史・文化的にもそれぞれの地域が違う魅力を持っているため、これらを生かした取組みが必要です。

一方、人口減少と超高齢社会は、地域を問わず進展すると予想され、同時に企業や商店の減少、それに伴う空き地・空き家も増加することが考えられます。これらの課題を解決するため、居住環境の向上や産業振興に向けた対策が必要となります。

以上の点から、基本方針実現のための必要な施策を次のとおりとします。

### 基本方針1 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

▶ 適切な土地利用を進めることで、無秩序な開発の防止や公共交通の機能強化を図ることにより、誰もが暮らしやすい環境をつくります。

1-(1) 都市機能の拡散を抑える

1-(2) 交通結節点機能を強化する

1-(3) 公共交通と連携した土地利用計画を行う

### 基本方針2 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致

▶ 観光拠点の充実や遊休不動産の活用による交流人口の増加、良好な居住環境の創出による定住人口の増加を目指します。

2-(1) 集客・交流機能を集積させる

2-(2) 空き地や空き家を有効活用する

2-(3) 良好な居住環境を増やす

### 基本方針3 地域の誇れる個性・景観・くらしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

▶ 地域性に富んだ自然環境や歴史・文化の観光資源としての活用と都市施設の整備促進等により地域の魅力を高めます。

3-(1) 自然との共生を図る

3-(2) 歴史・文化を保全・活用する

3-(3) 地域資源を保全・活用する(※)

3-(4) 介護・医療を充実させる

3-(5) 地域内の自助・共助を維持する(地域コミュニティの維持)

3-(6) 都市の魅力をつなげる

### 基本方針4 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

▶ 交通インフラの整備により、都市間移動の利便性を高めるとともに、移動の目的に応じた選択が出来るよう、移動手段の充実を図ります。

4-(1) 移動手段の選択肢を増やす

4-(2) 高速交通網へのアクセス性を高める

4-(3) 移動の負担を軽減する

### 基本方針5 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

▶ 暮らしに安心感をもたらし、生活の魅力を高めます。

5-(1) 安全・安心な地域を維持する

5-(2) 避難を容易にする

### 基本方針6 ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

▶ 幹線道路や融資制度など、企業が活動しやすい環境を整備することで、地域産業を活性化します。

6-(1) 企業や産業の流出を防ぐ

6-(2) 新たな産業を創出する

### 基本方針7 家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

▶ 民間活力の活用を図りながら、環境に優しい都市経営を目指すことにより、豊かなみどりを保全します。

7-(1) 大気汚染・温室効果ガスを削減する

7-(2) 民間活力を活用する

(※)地域の特色ある強み

## 6. みどり市の基本方針と取組内容

### 6-3. 基本方針に基づく取組みの内容

#### 基本方針1. 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築

##### (1) 都市機能の拡散を抑える。

- みどり市に適した土地利用計画を導入して、まちの拡散を防止します。
- 幹線道路沿いの無秩序な開発を防止し、計画的な土地利用を行います。

##### (2) 交通結節機能を強化する。

- 駅前広場や駅周辺の駐車場や道路整備等の環境整備を行い、鉄道とバスの連携強化、パークアンドライドの推進等を図り、交通結節機能の強化を図ります。
- 市内を走る鉄道4路線の鉄道駅を結節点としたネットワークを形成し、各路線相互の連携強化を図ります。

##### (3) 公共交通と連携した土地利用計画を行う。

- 鉄道駅周辺の道路整備による渋滞解消など、都市基盤整備の推進を図ります。
- 新たな施設整備を鉄道駅周辺の公共交通の利便性が高い地域で行うなど、公共交通と連携した土地利用を行います。

#### 基本方針2. 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致

##### (1) 集客・交流機能を集積させる。

- 観光物産案内所の施設機能を充実させ、情報発信や案内事業を充実させ、集客・交流機能の強化を図ります。

##### (2) 空き地や空き家を有効活用する。

- 空き家バンク制度の活用により、空き家の有効利用を図り、定住促進や市外居住者との交流促進等に努めます。
- 空き地や空き家を駐車場や公園、休憩施設にするなど、公共施設としての活用を検討します。

##### (3) 良好な居住環境を増やす。

- 長寿命化計画に基づく公営住宅の計画的な改修や民間住宅を公営住宅として活用を検討するなど、良好な居住環境の確保を進めます。
- 公園や歩道など都市基盤の整備により、良好な居住環境を創出します。

#### 基本方針3. 地域の誇れる個性・景観・くらしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり

##### (1) 自然との共生を図る。

- 市北部の山間地から平坦地の里山など、地域性に富んだ自然環境を保護しながら、登山やハイキングなど自然を生かした観光資源の活用を図ります。

## (2)歴史・文化を保全・活用する。

- 国市指定史跡の岩宿遺跡や西鹿田中島遺跡などの文化財の保存・整備に努めながら、文化財に触れ、学習する機会の充実を図ります。
- あかがね街道の宿場町の街並みや常夜灯などの保護・整備により、観光資源の魅力化を図ります。

## (3)地域資源を保全・活用する。

- 各地域の観光資源を生かした特色ある観光地づくりを進めます。
- わかりやすい案内看板の整備など、観光案内事業の充実を図ります。
- 食ブランドなどの民間資源や、トロッコ列車への観光バスの連絡といった民間活力を利活用することによる観光機能の充実を図る。

## (4)介護・医療を充実させる。

- 要介護、一人暮らし、認知症などの高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けるための「地域包括ケアシステム」の構築を図ります。

## (5)地域内の自助・共助を維持する(地域コミュニティの維持)

- 高齢者等の自助・共助を支えるための活動(住民、民間団体、事業者など)やその活動を支える体制づくりを推進します。

## (6)都市の魅力をつなげる。

- 快適な生活環境を守るためにまちのまとまりを検討し、道路や污水处理施設などの都市施設の効率的な整備推進を図ります。

### 基本方針4. 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保

#### (1)移動手段の選択肢を増やす。

- 駅前広場や駅周辺の駐車場・駐輪場等の整備、鉄道とバスの連携強化により、移動の目的や距離に応じた移動手段を選択できるよう整備を図ります。
- エコレンタサイクル事業の機能充実と設置拡大を進め、移動手段の充実を図ります。

#### (2)高速交通網へのアクセス性を高める

- 整備が進められている都市計画道路(国道50号前橋笠懸道路、笠懸西部幹線、笠懸桐生大橋幹線)の事業促進と周辺道路の整備を行い、北関東自動車道などの高速交通網へのアクセス性を高めます。

#### (3)移動の負担を軽減する

- 鉄道駅周辺や渋滞多発区間の道路整備により、渋滞を減少し、移動時間の短縮を図ります。
- 本市と周辺都市の連携による活力ある広域都市圏の形成を目指し、幹線道路等の整備を国や県と連携し、推進します。

## 基本方針5. 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化

### (1)安心・安全な地域を維持する。

- 群馬県が整備を進める石田川流域調節池整備事業に併せて、市の雨水排水施設を整備し、豪雨による道路冠水や浸水被害を防ぎます。
- 道路側溝や農業用水路等の改修により、道路冠水被害を減らしていきます。
- ヘリポート等の災害応急対策施設を備えた防災拠点の整備を推進します。
- 災害時に県や周辺自治体、関係機関と協力体制が取れるよう、連携強化を図ります。

### (2)避難を容易にする。

- 災害時の避難路の整備や避難サインの設置を検討します。
- 都市公園等の整備を進め、災害時の避難場所の確保に努めます。

## 基本方針6. ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり

### (1)企業や産業の流失を防ぐ。

- 幹線道路の整備促進により、北関東自動車道など高速交通網へのアクセス性の向上を図り、産業優位性を高めます。
- 市内企業に対する融資制度など優遇策の充実を検討します。

### (2)新たな産業を創出する。

- 起業者への融資制度など、起業しやすい環境づくりを進めます。
- 群馬県等と協力して、みどり市の環境を生かした企業の誘致を図ります。

## 基本方針7. 家計にも環境にも優しい付加価値の高い効率的なまちづくり

### (1)大気汚染、温室効果ガスを削減する。

- 公共用地内に太陽光発電施設や小水力発電施設などの自然エネルギーによる発電施設を設置し、大気汚染防止や温室効果ガスの削減を進めます。
- 公共施設等に電気自動車の充電施設を設け、電気自動車の利用推進を目指します。

### (2)民間活力を活用する。

- 公共施設の整備に際し、PFIの導入により民間事業のノウハウを活用を推進します。
- 民間住宅を公営住宅として活用することを検討します。
- 民間商業施設の公的利用等を検討します。



## 7. 重点プロジェクト

### 重点プロジェクトの策定

みどり市が目指すべき望ましいまちを実現するにあたっては、複数の関連する事業を一つのプロジェクトとして実施することで、個別に実施するよりも大きな効果を発現することが期待できます。

そのため、特に本計画策定後おおむね5年以内に効果発現が期待される複数の関連事業を一つのプロジェクトとして重点的に取り組みます。

#### ■プロジェクトの策定基準

笠懸地区では、生産年齢人口が増えており、それを適切に誘導するように駅を核としたまちのまとまりづくりの必要性が急務であること、また、大間々地区では、旧市街地からの人口流出が続いていることから、地域の自然・歴史・文化などの地域資源を生かした交流まちづくりが急務であるため、それらに関連する事業を一つのプロジェクトとして策定します。

### Project 1. 安全安心で快適に過ごせる魅力あるまちづくり

笠懸町阿左美地区は桐生市及び太田市に隣接しており、他市への移動に便利なことから、宅地化が進み、人口増加が続いています。また、阿左美沼や鹿の川沼などの自然環境にも恵まれており、自然と市街地が共生した地区となっています。

そこで、阿左美地区における公共交通や防災に関する生活環境を向上することによって、生活拠点としてまちの魅力を高めます。

### Project 2. 地域資源を活用した観光まちづくり

大間々町は、あかがね街道の宿場町として古くから栄えたまちで、ながめ余興場や高津戸溪谷をはじめ豊かな観光資源が存在しており、観光資源を生かしたまちづくりにより、多くの人が大間々町を訪れることで、まちに活力が生まれることが望めます。

そこで、観光施設の整備などによる既存の観光資源の魅力向上や、交通手段の充実による周遊性の向上により、多様な観光客のニーズに応えることによって、交流人口の増加を目指します。

# 7. 重点プロジェクト

## Project 1. 安全安心で快適に過ごせる魅力あるまちづくり

### ■整備方針

交通結節機能の強化及び雨水排水施設整備により、安全性・快適性の向上を図る

笠懸町阿左美地区は桐生市及び太田市に隣接しており、他市への移動に便利なおことから、宅地化が進み、現在も人口増加が続いています。また、阿左美沼や荒神山などの自然環境にも恵まれており、自然と市街地が共生した地区となっています。

そこで、阿左美地区における公共交通や防災に関する生活環境を向上することによって、生活拠点としてまちの魅力を高めます。

#### 目的1: 駅周辺整備による利便性・安全性の向上と交通結節機能の強化

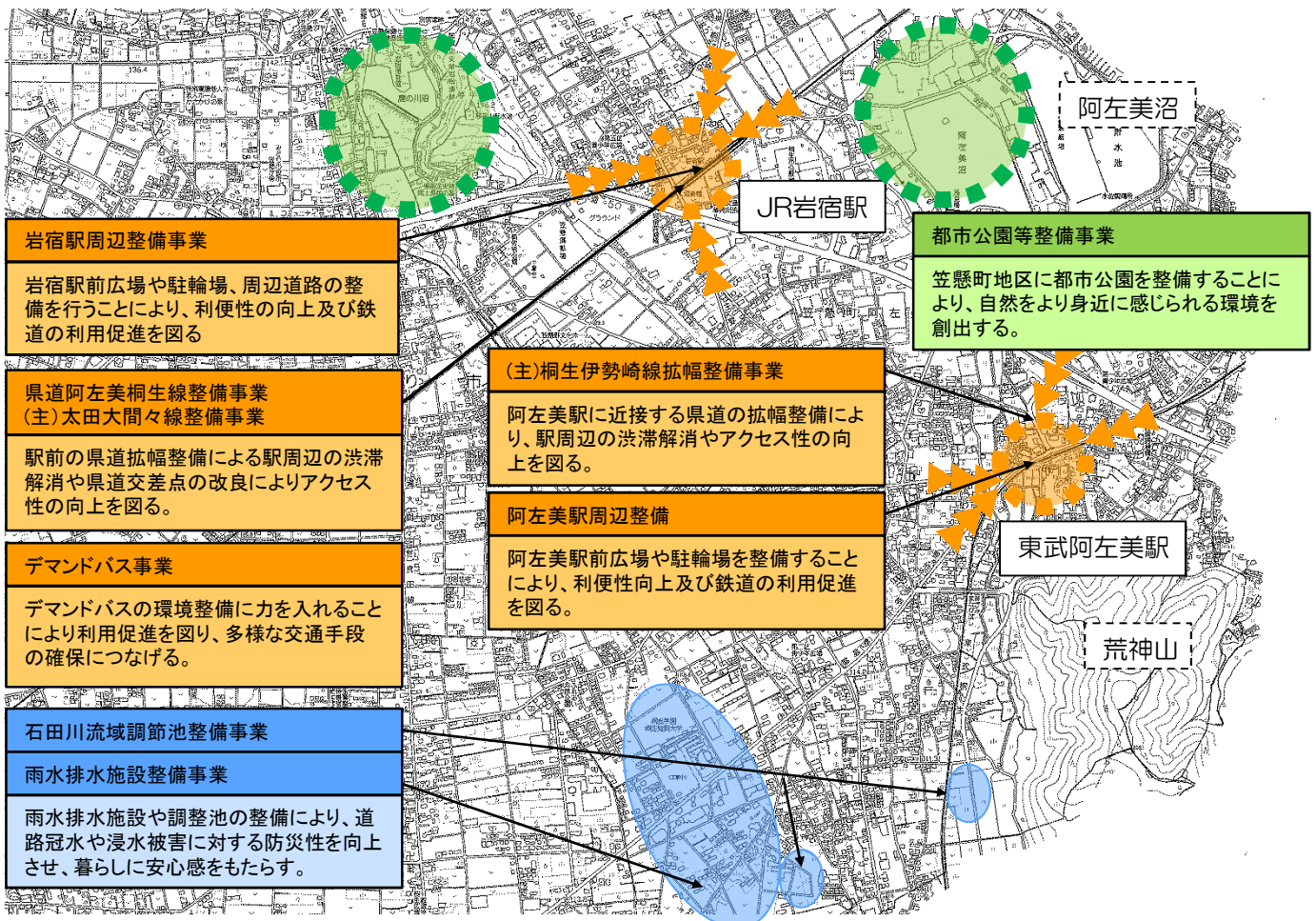
JR岩宿駅と東武阿左美駅の駅前広場や駐輪場等の整備により、公共交通の利便性の向上を図ります。また、駅周辺の道路整備等によりアクセス性を向上させ、デマンドバスなど他の交通機関との連携強化を図り、交通結節点の機能を強化します。

#### 目的2: 安心して暮らせる生活環境の整備

雨水排水施設の整備による冠水被害の防止や、都市公園等の整備による災害時の避難場所の確保など防災機能強化に努め、安心して過ごせるまちづくりを目指します。

#### 目的3: 輝くみどりを身近に感じられる環境の整備

都市公園の整備等により、阿左美沼や鹿の川沼などの自然と触れ合える環境の充実を図り、輝くみどりと市街地が共生するまちづくりを進めます。



# 7. 重点プロジェクト



成 果 指 標	基 準	年 目	標 年
阿左美駅乗降客数(人/年)	212,795 平成24年		219,000 平成30年

目 的	実施箇所	拠 点 別 パ ー ケ ー ジ		実 施 体	工 程 表					
		基本方針	取 り 組 む 事 業		26年	27年	28年	29年	30年	
駅周辺整備による利便性・安全性の向上と交通結節機能の強化	笠懸地区	1-(2)	阿左美駅周辺整備	市	→					継続
		4-(2) 4-(3)	(主)桐生伊勢崎線拡幅整備事業	県	→					継続
		1-(2)	岩宿駅周辺整備事業	市	→					新規
		4-(3)	県道阿左美桐生線整備及び(主)太田大間々線整備の検討	県		→				新規
		4-(1)	デマンドバス事業	市	→					継続
安心して暮らせる生活環境の整備	笠懸地区	5-(1)	雨水排水施設整備事業	市	→					継続
		5-(1)	石田川流域調節池整備事業	県	→					継続
輝くみどりを身近に感じられる環境の整備	笠懸地区	2-(3) 3-(1) 5-(2)	都市公園等整備事業	市	→					新規

# 7. 重点プロジェクト

## Project 2. 地域資源を活用した観光まちづくり

### ■整備方針

観光案内所等の環境整備等により、観光資源の魅力向上を図る

大間々町は、あかがね街道の宿場町として古くから栄えたまちで、ながめ余興場や高津戸溪谷など豊かな観光資源が存在しており、観光資源を活かしたまちづくりにより、多くの人が大間々町を訪れることで、まちに活力が生まれることが望めます。

そこで、観光施設の整備などによる既存の観光資源の魅力向上や、交通手段の充実による周遊性の向上により、多様な観光客のニーズに応えることによって、交流人口の増加を目指します。

#### 目的1: 観光機能の充実

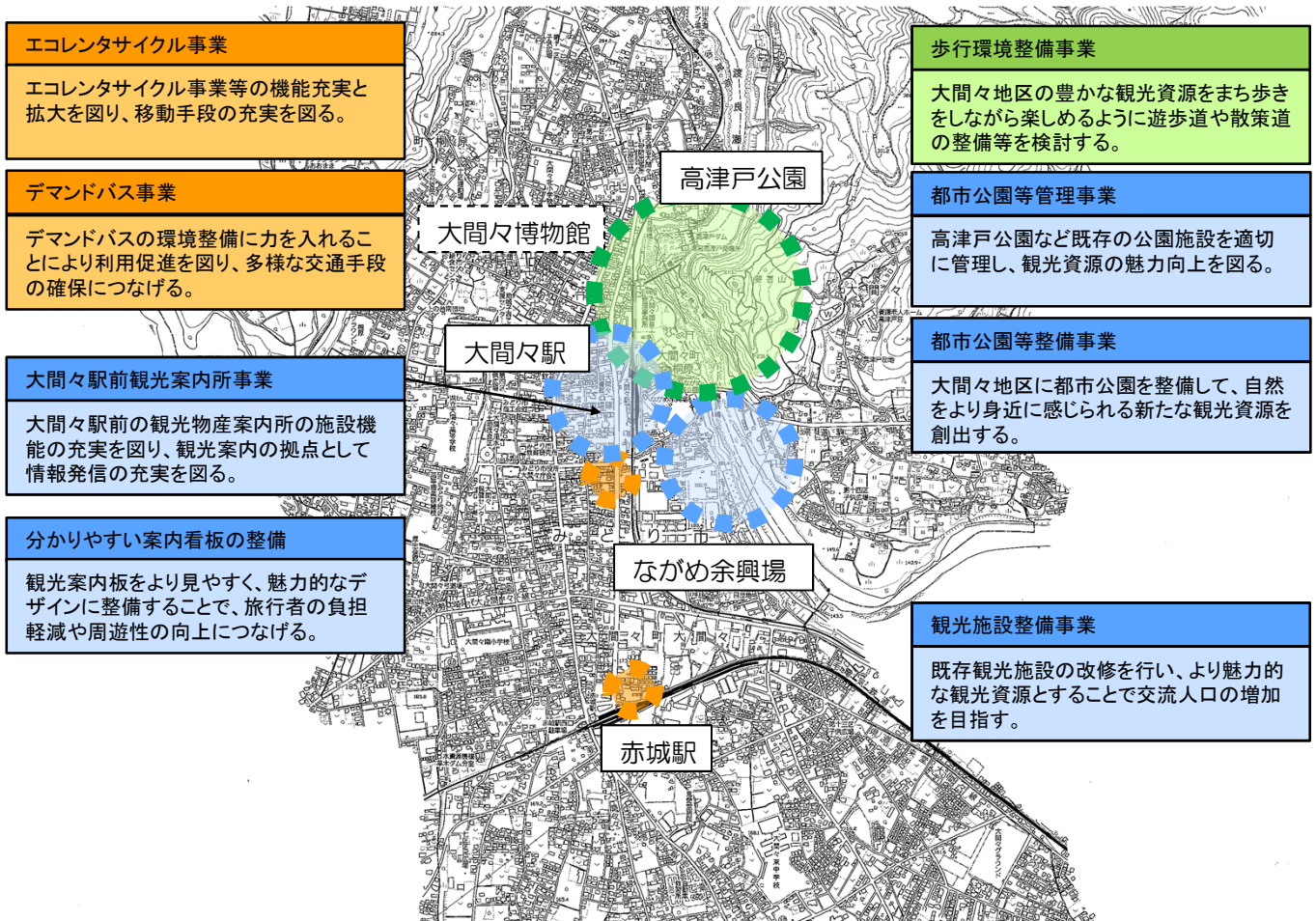
大間々駅前観光案内所の機能充実や既存観光施設の改修を行うことにより、観光資源の魅力向上を図り、また案内看板の整備など案内事業の充実により、交流人口の増加を目指します。

#### 目的2: 多様な移動手段の確保

駅から目的地までの末端交通の手段としてエコレンタサイクル事業等の機能充実を図ります。またデマンドバスの環境整備等により、旅行者の目的や距離などに応じた移動手段を確保し、地区内での周遊性の向上を図ります。

#### 目的3: 歩行環境の整備

大間々地区の豊かな自然や歴史ある街並みをまち歩きをしながら楽しめるように、遊歩道や散策道の整備を行うなど、歩行環境の整備を検討します。



## 7. 重点プロジェクト



成 果 指 標	基 準 年	目 標 年
入込観光客数(人/年)	2,708,544 平成23年 (「みどり市観光振興計画」より)	3,000,000 平成29年 (「みどり市総合計画」より)

目 的	実施箇所	拠 点 別 パ ー ケ ー ジ		実 施 体	工 程 表					
		基本方針	取 り 組 む 事 業		26年	27年	28年	29年	30年	
観光機能の充 実	大間々町地区	2-(1)	大間々駅前観光案内所事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
		3-(3)	観光施設整備事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
		2-(3) 3-(1)	都市公園等管理事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
		2-(3) 3-(1)	都市公園等整備事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					新規
		3-(3)	分かりやすい案内看板の整備	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
多様な移動 手段の確保	大間々町地区 笠懸町地区	4-(1)	エコレンタサイクル事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
		4-(1)	デマンドバス事業	市	[Progress bar from 2026 to 2030]					継続
歩行環境の 整備	大間々地区	3-(2)	歩行環境整備事業	市			[Progress bar from 2028 to 2030]			新規



みどり市

